

まちづくり構想（地域案）

令和 2（2020）年 1 月
富秋中学校区等まちづくり検討会議

は じ め に

まちづくり構想とは

この構想は、富秋中学校区（隣接校区の一部を含む）において、公共施設の再編をきっかけに、新たなまちづくりを進めていくための“**道しるべ**”となるものです。

平成30年2月から令和2年1月の間、地域の代表者が集まる「**富秋中学校区等まちづくり検討会議**」と、住民、学校関係者、商店主、福祉関係者など誰でも参加できる**4つの専門部会**（子育て・教育部会、住環境コミュニティ部会、福祉部会、地域活性化部会）等により延べ30回を超える議論を行い、その内容を本構想にとりまとめました。

まちづくり構想の役割

この構想を通じて、まちを変えていくメッセージを発信するとともに、まちの将来像を共有します。そして、地域・行政・学校・事業者などの関係者が連携・協働・役割分担しながら、この構想の実現に向けて取り組んでいきます。

地域・行政・学校・事業者等が一丸で「**まちを変えていく**」というメッセージを発信する

「**こんな魅力的なまちになっていく**」というイメージを共有する

実現するためのシナリオを明示する（誰が、いつ、何をするか）

目 次

1	富秋中学校区等の概要	1
2	まちの現状	3
3	めざすまちの未来	7
4	まちを動かす・変えていくシカケ	11
5	「まちの核」をつくり・つなげる	17
	6つの【コアプロジェクト】	
6	実現と発展に向けた持続可能な体制	27

｜ 参 考 ｜

参考 1	「富秋中学校区等まちづくり検討会議」委員名簿	29
参考 2	「まちづくり構想（地域案）」策定に向けた 会議等の開催経緯等	30
参考 3	「まちづくり構想（地域案）」に関するアンケート調査	38

1

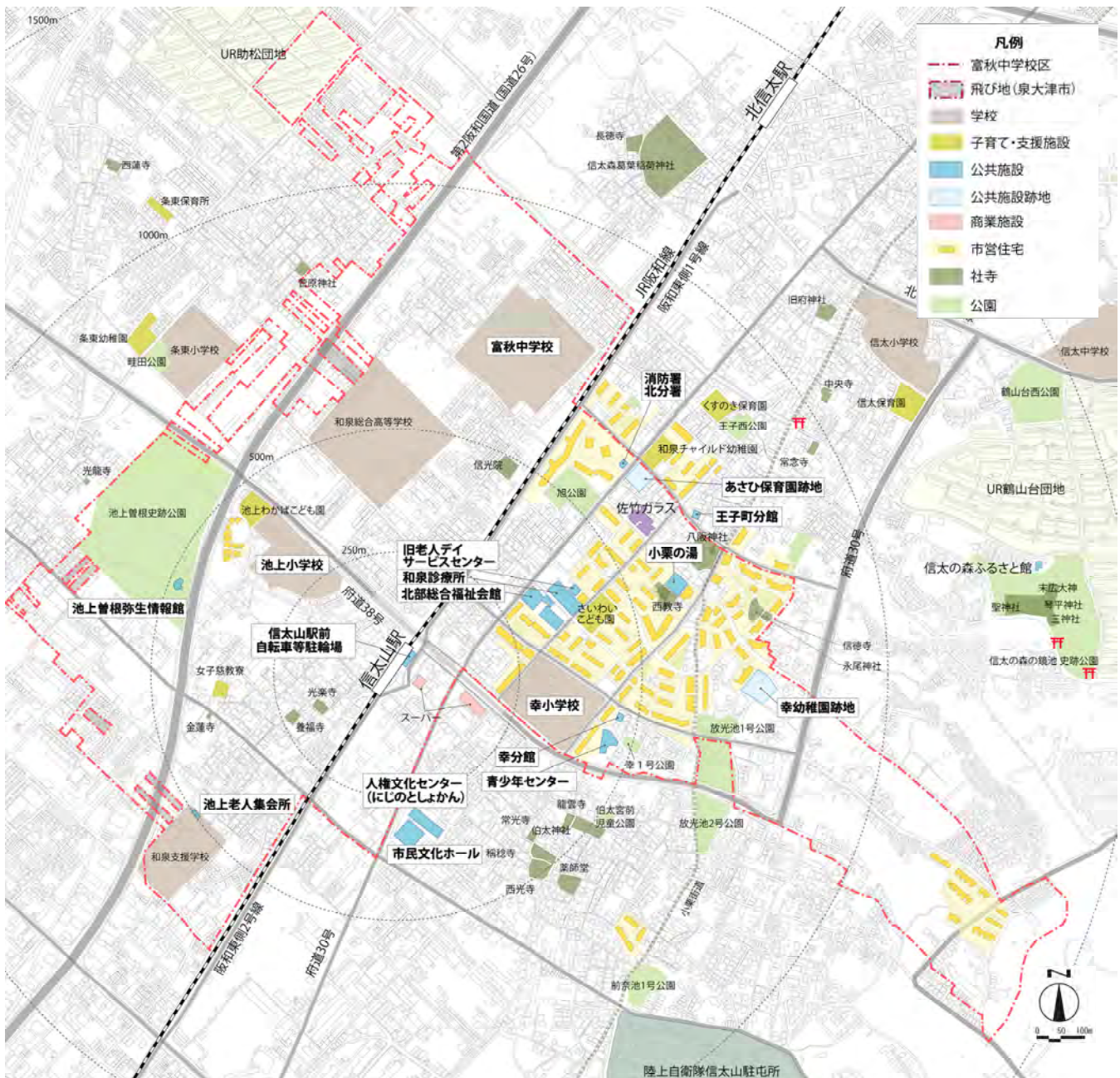
富秋中学校区等の概要

【地区の概要】

本構想の対象となる富秋中学校区等は、池上小学校区と幸小学校区からなる（隣接する伯太小学校区、信太小学校区の一部を含む）地区です。

そのうち富秋中学校区は、J R 阪和線 信太山駅を起点として半径 1.5km に校区が広がる約 140ha の地区です。現在、約 1 万 1 千人の方が暮らしています。

■富秋中学校区等 位置図



小栗街道や池上曽根史跡遺跡、社寺などの歴史資産が残る一方、校区の大半は戸建住宅や市営住宅などが並ぶ住宅地です。駅前や幹線道路、市営住宅周辺には商業施設等も並んでいます。

また、市営住宅や学校をはじめとして、和泉診療所や北部総合福祉会館、人権文化センター、青少年センターなどの公共施設が多く集まっている校区です。



信太山駅前



池上曽根史跡公園（イベント時）



登録有形文化財 西教寺



市営住宅団地



市営住宅の1階に連なる商店



和泉診療所



北部総合福祉会館



人権文化センター（にじのとしょかん）



青少年センター（運動場）



池上小学校



幸小学校



富秋中学校

2 まちの現状

【まちの資源】

校区社協、民生委員・児童委員などによる多様で活発な**支えあい活動**
⇒昔からコミュニティが強く、今も大切にするまち！



池上校区の福祉活動（いきいきカフェサロン）

子どもたちの**教育環境**を真剣に考える**地域文化**
⇒多くの人たちが子どもたちを思い、関わりを持っている！



ブックフェスティバル



団地1階を使った交流拠点（すこやかリビング）



団地店舗を使って行われている宿題教室

多様な人々を受け入れる、**包容力のある地域特性**
⇒子どもの見守り、高齢者・障がい者を支援する活動なども活発！

診療所や福祉会館、人権文化センター、青少年センターなどの医療・福祉施設・市民施設・教育施設が充実



ふれあいモーニング（シルバースペース）

子どもたちの異年齢交流が行われているプレーパークの取組み
⇒学校での取組みだけでなく地域の
子育て活動も活発！



青少年センターでの異年齢交流

100 人を超える子どもたちが参加する子ども食堂（西教寺）
⇒富秋中学校区外からも児童・生徒
が多数集まっている！



西教寺の子ども食堂「てらこやハッピー」

小栗判官に由来する小栗街道、池上
曽根史跡遺跡などの歴史・伝承文化
⇒小栗判官伝説は歌舞伎や浄瑠璃の
演目にも登場！



池上曽根史跡遺跡（いずみの高殿）

地域に愛される伝統文化行事（信太
山盆踊り・だんじり）や地場産業（ガ
ラス細工・人造真珠）
⇒人造真珠は全国有数のシェア！



地域外からも大勢訪れる信太山盆踊り（8月）



登録有形文化財 佐竹ガラス

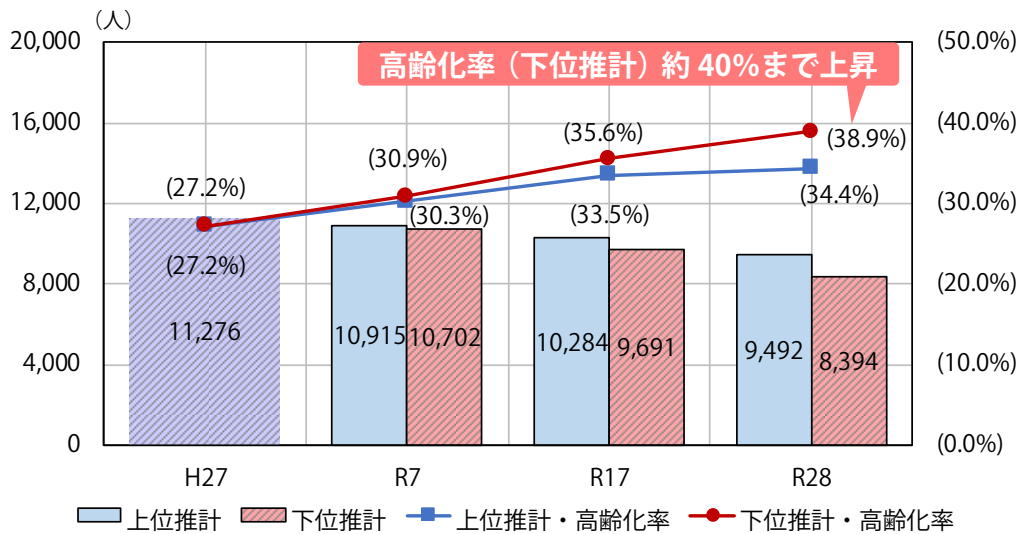


世代を超えて伝統文化を受け継ぐ
だんじり祭（10月）

都市部から程よい距離。駅近で便利

【まちの課題】

富秋中学校区では人口減少傾向が続き、今後 30 年で高齢化率は約 40%まで上昇予想



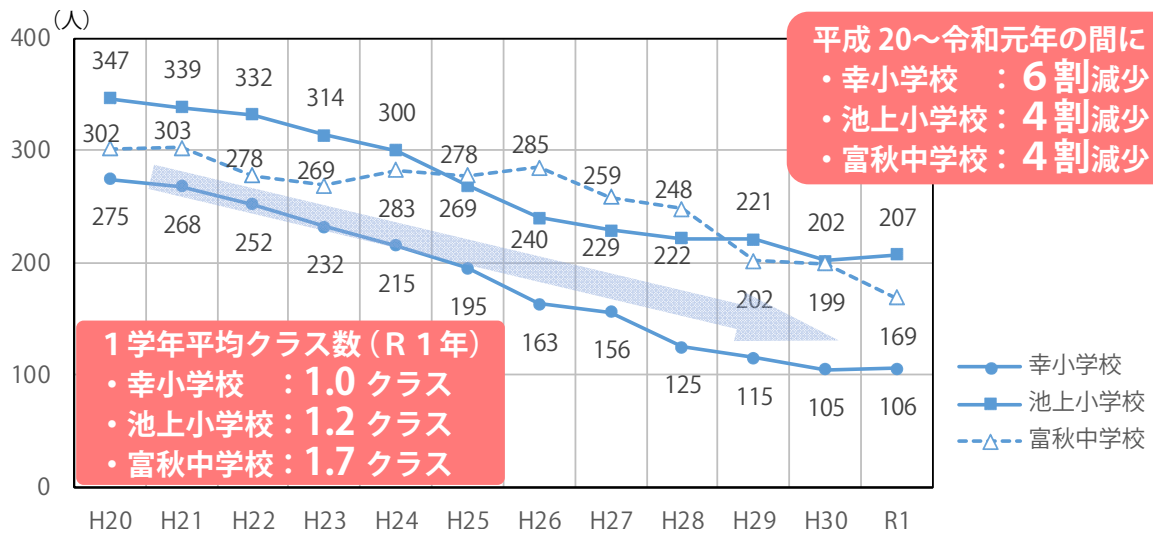
※高年齢化率：高齢者（65 歳以上）の割合

※各推計の設定条件について

【上位推計】国の『まち・ひと・しごと創生長期ビジョン』において示された合計特殊出生率が達成すると仮定
(平成 32 年：1.60、平成 42 年：1.80、平成 52 年：2.07)

【下位推計】合計特殊出生率 1.37（平成 25 年と同じ）が継続すると仮定

児童・生徒数は、この 10 年で各校 4～6 割減。現状のままでは今後も増加は見込めない
⇒このまちの次世代をになう子ども・若者が減少傾向



市営住宅や学校をはじめとした公共施設の老朽化が顕著。耐震性に課題のある住宅・施設もある
空き家、空き店舗、団地集会所など公共施設が有効活用されていない
⇒貸室の稼働率（利用率）は約 21%。なかにはほとんど利用されていないスペースも

高齢化・人口減により世代間交流が減少。高齢者の孤立化もある
⇒地域社会に参加するきっかけが必要

地域で育った若者などが地域に戻りたくても、住むことができる住宅がない
⇒新たに住宅を建てる土地が少ない
⇒コミュニティバランスが悪化

\ ワークショップなどでこんな意見も挙げられました /

子ども・親が安心して過ごせる居場所が少ない
未就学児を支援する施設は少ない
親同士が悩みを話せたり、集まれる場が少ない



子どもが思いきり遊べる場所が少ない
中学生などの居場所が少ない

複雑な事情を持ち、家庭での教育が難しい方もいる
勉強の楽しさが伝えきれず嫌いになる子どもも多い



いつでも誰でもふらっと立ち寄れる場がない
公共施設は多いが、気軽にパッと使いにくい
活動したくても集会所などが無い地区もある

地域活動は活発だが、横のつながりが乏しい
活動の情報が届いていない



地域で働ける場所がない
地場産業や店舗の後継者がいない

盆踊りやだんじりは活発だが出店は以前より減った
祭りの後継者が不足



買い物等で止められる駐車場が少ない

駅改札が西口になく不便
駅前から地区内を巡る移動手段が少ない



狭い道、夜暗い道など不安な場所がある
まちに緑が少ない

3 めざすまちの未来

<まちの目標像>

つどい・そだち・つながりを
大切にする人権尊重のまち とみあき

① 今の暮らしを大事にしつつ、“住みたい”と思われるまち

- 安心・安全に暮らし続けられるまち、
新たにこのまちに住む人を惹きつける魅力と活力が満ちたまちへ

② 住民一人ひとりが協力・参加し、地域・人を育てるまち

- 住民が自主性を持ってまちの魅力づくりを考え、行動・実践するまちへ

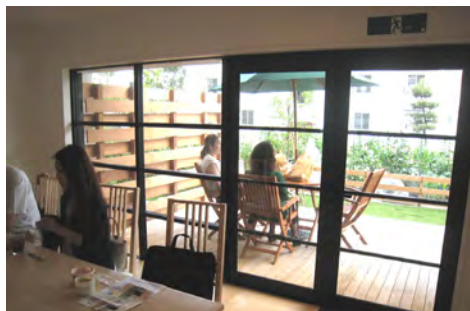
③ 子どもから大人まで、みんなが交流し、支えあえるまち

- 一人ひとりの信頼関係やつながりを大切にするまち、
「人権」を尊重し、多様な人々がともに支えあいながら暮らすまちへ

たとえば 10 年後はこんなまちに…

イメージ①

団地活用や建替などにより、子ども、
若者・子育て世帯、高齢者が**安心・安全・快適**に過ごせる住まい、居場所、
支えあいの仕組みができている



イメージ②

このまち独自の魅力的な教育活動をスタート。地域と学校が日常的に関わり、
地域・保護者・学校・行政等が一丸で
子育てと子育てを支援する環境に



<まちづくりの作法（基本ルール）>

この3つの作法は、これからみんなでまちづくりを具体的に進めていく上で最も大切にしてい**く「基本ルール」**です。

① 「住民目線」で

今住んでいる人、新たにこのまちに住む人の暮らしを第一に考えて、まちをつくっていく

② 「協働型」で

取組みは、地域（住民・団体）・行政・学校・事業者など、みんなで議論し実践する

③ 「段階的」に

目の前のできることからまず取組み、地域で挙げた成果や経験を継承しながら、徐々に大きくまちをつくりかえていく

イメージ③

教育・多世代交流拠点には、地域のあらゆる人が集まり、**相談や読書、遊び、福祉活動、会議、催しなど地域の様々な活動**が行われている



イメージ④

活躍したい人は、地域の施設の運営やまちづくりプロジェクトに関わることができ、**新たな挑戦ができる環境**に



そして 20 年後はこんなまちに…！





※これはイメージです

4 まちを動かす・変えていくシカケ

シカケ 1

公共施設再編を契機に「まちの核」をつくり、活性化につなげる

- 「公共施設の再編」とは、市営住宅や学校、その他の公共施設の改修や集約建替えを行うこと、また、集約化して生まれた跡地を活用することです。跡地は地域と行政が対話しながら、民間住宅地や福祉施設、商業施設、公園等を整備し活性化につなげます。
- 「まちの核」とは、「まちを支えるために必要な機能」が集まる拠点のことです。このまちがこれまで大切にしてきたところを受け継ぎながら、まちにある様々な機能を集約し、コンパクトに暮らせる「まちの核」を段階的につくります。
- どのように跡地を活用し、どのような「まちの核」をつくるかは、これから地域・行政・学校などで議論を行い、事業者の意見も参考にしながら決めていきます。

これからのまちを支えるために必要な機能

「交流機能」

活動・相談・見守り・支えあいなど
多世代が気軽に集える地域の居場所

<意見>

- ・誰でも来られる地域の集い場が必要
- ・自然な交流や見守りが続く場に
- ・みんなが来やすい場所で使いやすく
- ・拠点をつくり地域内外の交流を活性化

「市営住宅」

安心・安全に住める、
多世代が共生する市営住宅

<意見>

- ・市営住宅の改修・建替えを早期に
- ・空き住戸を活用して若者を呼び込んで（ＤＩＹ住宅、アトリエなど）
- ・高齢者等が孤立することなく安心できる住まいが必要
- ・若者や子育て世帯が住める環境づくり

「民間住宅」

公共施設再編の跡地を使った
若者・子育て世帯が住める民間住宅

<意見>

- ・地域出身の若い世帯や新たな世帯が住める住まい（戸建・賃貸住宅）が必要
- ・公共施設を集約した跡地は、多様な世帯が住める住宅地とし、若者を増やす

「学校」

地域・保護者も一丸となった
特色・魅力のある学校

<意見>

- ・子どもたちを通わせたいと思う学校へ
- ・地域環境を活かした教育を行う学校へ
- ・地域が関わり多世代交流が盛んな学校へ
- ・一丸となって課題を解消する学校へ

「読書・学習&子育て機能」

子どもと大人の信頼関係を築く、
子育て・子育て活動を支える場

<意見>

- ・地域全体で子育て・教育をサポート
- ・子どもたちのよりどころとなる場を
- ・子育て中の家庭が相談・話し合える場に
- ・子育て世帯を引きつける特徴的な子育て・教育の活動も必要

「地域福祉・医療機能」

高齢者等が孤立することなく
安心して暮らし続けられる施設・場

<意見>

- ・高齢者等の孤立・引きこもりへの対応
- ・医療・福祉と高齢者の住まいは近くに
- ・診療所は地域外からも訪れやすく
- ・地域の福祉活動・人材は共有・交流を

「防災機能」

自然災害等の際に安心・安全に
避難できる経路・施設

<意見>

- ・学校再編後も、避難経路と避難所をしっかりと確保することが必要
- ・災害対応に地域差が出ないよう拠点施設に防災機能を集約して対応をすべき
- ・空き家・集会所等を使って防災空間・設備の確保を

「魅力創出機能」

訪れたいと思わせる、**地場産業・歴史資源**を活かした魅力づくりの取り組み

<意見>

- ・地域魅力（ガラス・アクセサリ、歴史・伝承・商店）を集めたブランドづくり
- ・地域魅力・情報を発信する機会が必要
- ・団地空間を活かしたにぎわいづくりを（空き家、空き店舗、壁など）
- ・池上曽根史跡公園をもっと活用（イベント時の出店、音楽ライブなど）
- ・信太山盆踊りやだんじりに関連する取り組みを増やす（三味線貸出、浴衣着替スペースなど）

「買い物・飲食&駐車機能」

まちでの**暮らしや移動を**
便利で魅力的にする施設

<意見>

- ・地域でもっと食事できる場所が必要（商店、屋台・朝市など）
- ・空き店舗を開業希望者に貸しては
- ・買い物するための駐車場が必要
- ・ベビーカーでも来やすいお店を

「働く場」

身近な所で**働いたり**活躍できる、
生きがいを持てる場

<意見>

- ・定住人口を増やすためには雇用が必要
- ・育成する人材を招いて、短時間でも地域で働ける場・機会を
- ・やる気ある人が施設運営や地域活動に身近に関われるように
- ・目玉となる施設ができれば、商店も活性化し、新たな雇用も生まれる

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

シカケ 2

「まちの核」を中心にした 【コアプロジェクト】をつくる

- 「コアプロジェクト」は、めざすまちの未来の実現のために実践する
施設整備（ハード）と活動（ソフト）両面からなる取組みです。
- この構想では、議論を通じて実施する方向性や役割が見えてきた、次の**6つのコアプロジェクト**を位置付け、地域の機運を高めながら、今後実現に向けた具体的な検討を行っていきます。
- コアプロジェクトは、これで全てではありません。構想策定後も引き続き議論していくなかで、新たなプロジェクトが位置付けられることを想定しています。

プロジェクト 1 多世代交流拠点づくりプロジェクト

市営住宅の建替えや施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の導入とあわせて、富秋中学校区の「まちの核」となる**多世代と多様な人々が交流する機能を備えた複合拠点**をつくります

プロジェクト 2 学校・教育魅力づくりプロジェクト

現・富秋中学校の位置に**施設一体型義務教育学校（小中一貫校）**を導入し、魅力ある教育を実践する拠点と、子どもたちの最善の教育環境をつくることをめざします※

注）施設一体型義務教育学校（小中一貫校）は、行政において地域への個別説明や、アンケートを実施し、地域の機運の高まりが確認できた段階で、適正就学対策審議会などの手続きを進めることとなります

プロジェクト 3 団地で子育てプロジェクト

市営住宅の**空き住戸、空きスペース**を活用して、**若者・子育て世帯の呼び込み**を実施します

プロジェクト 4 居場所づくりプロジェクト

子ども・大人・親子・高齢者など「誰でも」**来られる居場所づくり**を実施します

プロジェクト 5 安心・安全暮らしプロジェクト

高齢者や障がい者が**安心・安全に暮らせるよう**、**福祉・防災の取組みを充実**していきます

プロジェクト 6 にぎわいづくりプロジェクト

地場産業や歴史資源、地元商業者の活力を活かし、**地域のにぎわいを活性化**する取組みを実施します

シカケ 3

安心・安全・快適な通り・空間で、 「まちの核」やまちの資源をつなぐ

- 拠点となる「まちの核」や歴史・伝統あるまちの資源の周辺は、**歩いて安心・安全、快適に感じられる通り・空間**となるよう、安心・安全に学校へ通える通学路や快適な歩行者道路の整備、沿道空間の利用、緑の手入れなどを行っていき、まちとしての魅力を高めます。



安心・安全に通える通学路
(イメージ写真)

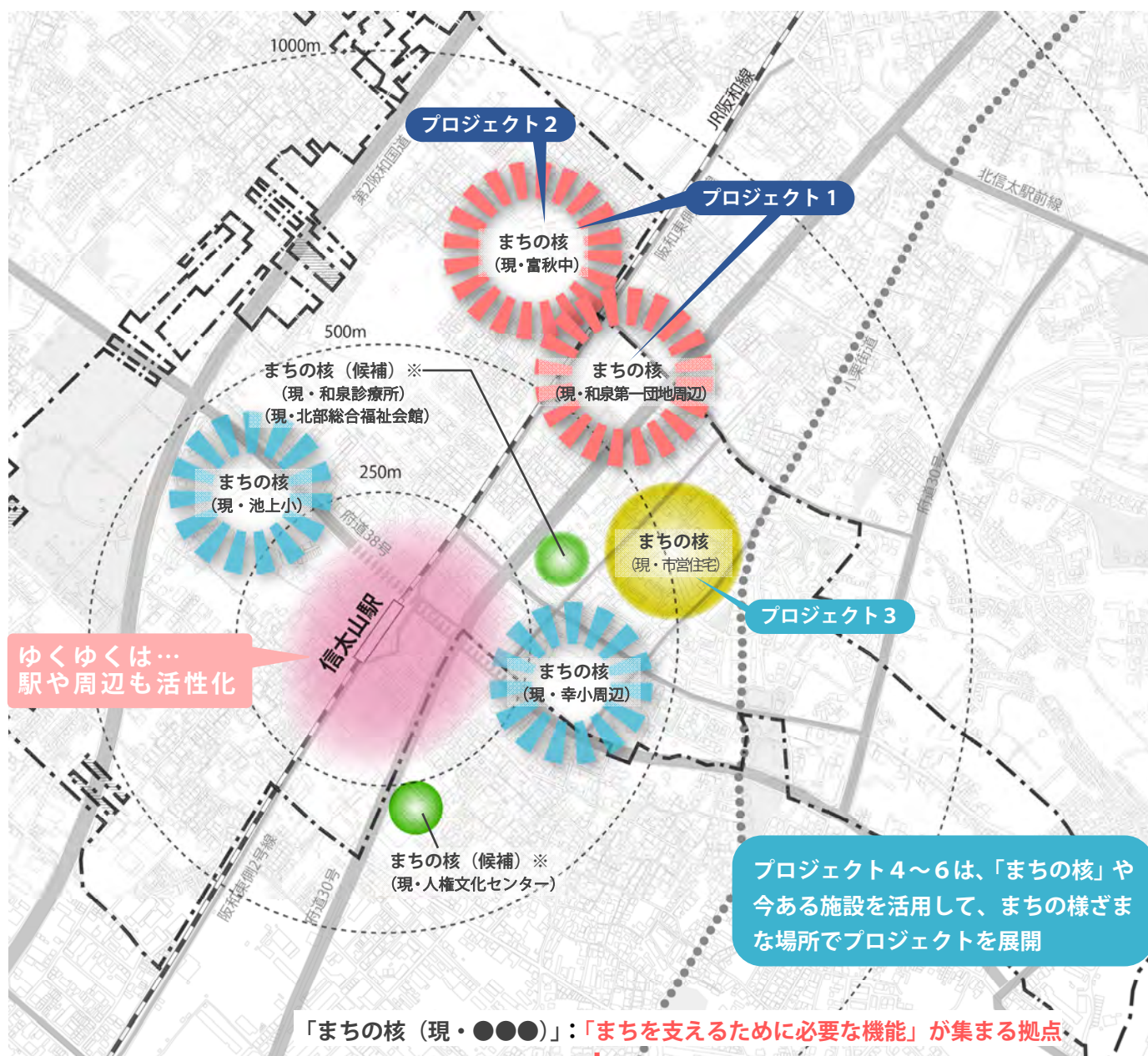


うるおいのある散歩道
(イメージ写真)



まちのみんなが集うメインストリート
(イメージ写真)

＜まちを動かす・変えていくシカケによるまち再編イメージ＞



※公共施設の再編により将来的にまちの核となる可能性を持つ候補

現在の市営住宅や学校をはじめとする**公共施設を再編し、**
跡地にまちに必要な機能 (まちの核) を整備

地域と行政が対話しながら跡地活用を進め、住宅地やお店、公園、福祉施設等を整備。若者・子育て世帯が新たに住めるまちへ

プロジェクト1 多世代交流拠点づくりプロジェクト

市営住宅の建替えや施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の導入とあわせて、
多世代と多様な人々が交流する機能を備えた複合拠点を つくる

地域の中心に安心・安全な住まいとみんなの拠点を

プロジェクト2 学校・教育魅力づくりプロジェクト

現・富秋中学校の位置に施設一体型義務教育学校（小中一貫校）を導入し、魅力あ
る教育を実践する拠点と、子どもたちの最善の教育環境をつくることをめざす

通わせたいと思える学校、地域と共にある学校へ

プロジェクト3 団地で子育てプロジェクト

市営住宅の空き住戸、空きスペースを活用して、
若者・子育て世帯の呼び込みを実施する

若者・子育て世帯を呼び込むきっかけづくり

プロジェクト4 居場所づくりプロジェクト

子ども・大人・親子・高齢者など「誰でも」来られる居場所づくりを実施する

プロジェクト5 安心・安全暮らしプロジェクト

高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせるよう、福祉・防災の取組みを充実していく

みんなで支えあうしかけづくり

プロジェクト6 にぎわいづくりプロジェクト

地場産業や歴史資源、地元商業者の活力を活かし、
地域のにぎわいを活性化する取組みを実施する

伝統を大切に！訪れたいくなるまちへ！

5 「まちの核」をつくり・つなげる 6つの【コアプロジェクト】

プロジェクト 1

中期

多世代交流拠点づくりプロジェクト

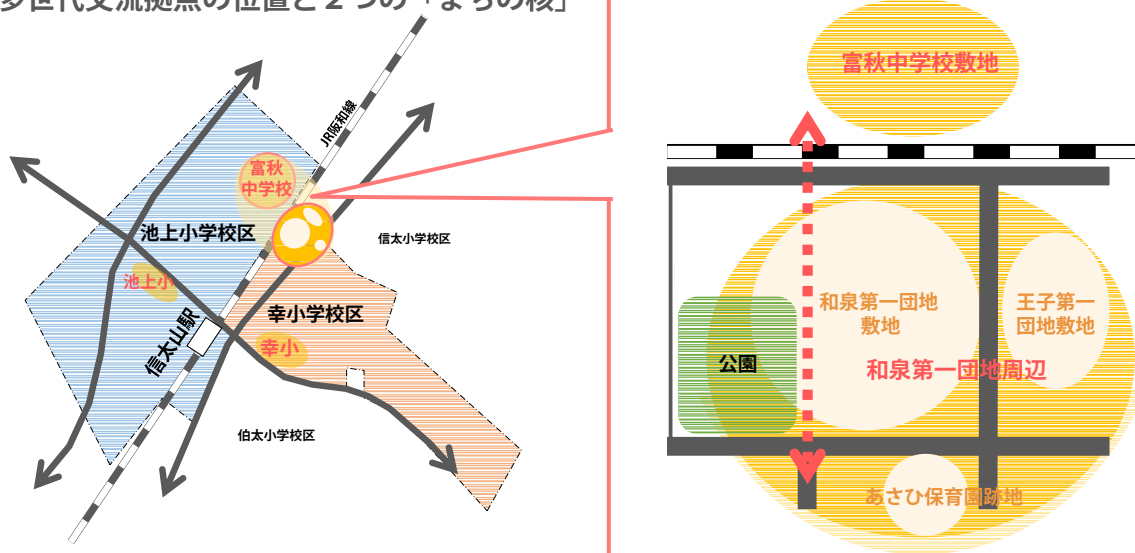
<取組み方針>

- ①地域の中心に、誰もが集まりやすく、地域活動や相談・見守り・支えあいなどを行える、**みんなの居場所**となる、**多世代と多様な人々が交流する拠点**をつくる
- ②和泉第一団地を、耐震性に課題がある他団地とともに**集約建替え**し、**安心・安全でコンパクトに暮らせる住まい**をつくり、**住まい×交流の複合拠点**とする
- ③**地域みんなで**、多世代交流の活動内容や、使っていくルールを考え、**みんなで拠点**をつくり育てていく

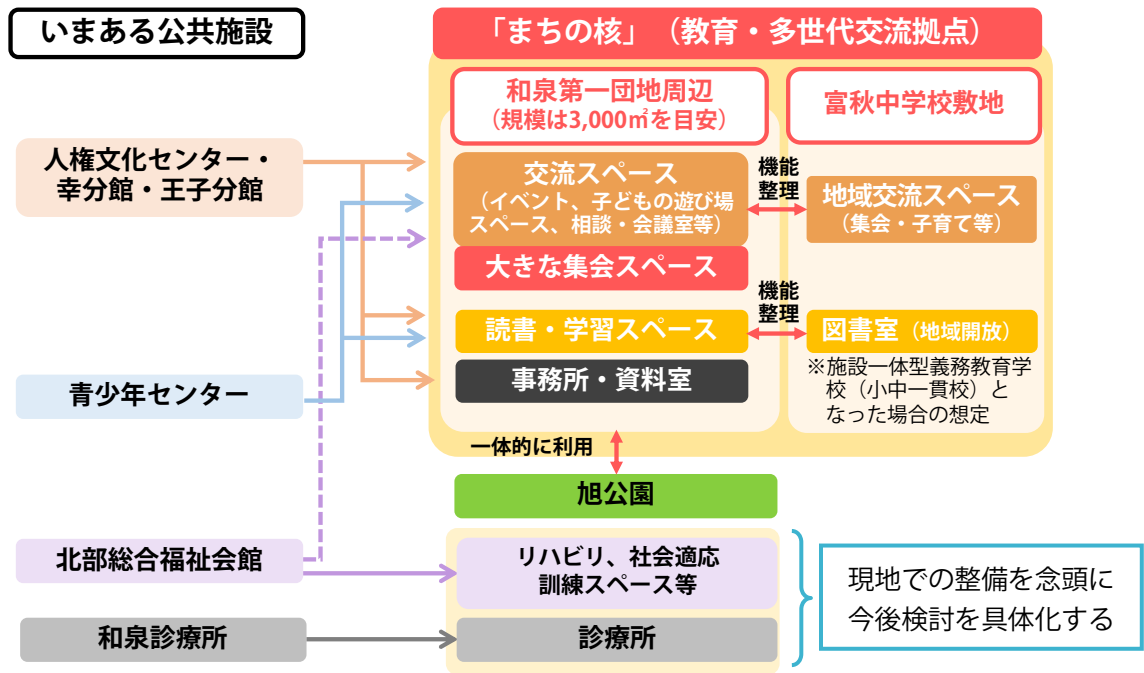
<多世代交流拠点づくりの考え方>

- 2つの小学校区にまたがる“和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”を大きな「まちの核」とし、公共施設を再編して多世代交流拠点をつくる
- “和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”は機能連携し、必要機能は分担する
- 和泉第一団地周辺の「まちの核」は、**建替用地**（和泉第一・王子第一）+ **更地**（あさひ保育園跡地）も活用する
- すぐに活用できるあさひ保育園跡地には、先行して子育て機能を誘致する
- このほかの拠点に導入する機能や規模は、地域で話し合った「まちに必要な機能」イメージを基に、地域と行政が対話を進めながら検討する

■多世代交流拠点の位置と2つの「まちの核」



■部会・検討会議で議論した「まちの核」の機能イメージといまある公共施設との関係



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・新たな住まいづくり・コミュニティづくりの方針を検討する
- ・施設内容やイメージ、条件等を行政と協議して検討する
- ・施設の使い方や運営する体制などを検討し、施設運営にも関わっていく

●行政

- ・安心・安全で多様な市営住宅と魅力的な多世代交流拠点が整備される事業手法を検討し、和泉第一団地での市営住宅の集約建替と、みんなの居場所となる多世代交流拠点を整備・運営する

●事業者

- ・安心・安全で多様な市営住宅と魅力的な多世代交流拠点を行政に提案し、行政とともに整備する

◎意見 (主なもの)

- ・拠点はどこにあるかがわかりやすく、誰もが集まりやすく、使いやすく
- ・やる気のある人が、活動を興せる“受け皿”となり、“やりがい”を持てる場に
- ・人権文化センターなど、いまある施設の機能、取組み・活動をよく精査し、新たな施設に反映すべき
- ・子どもが入ってきやすくなる工夫が重要
- ・青少年センターに代わる、子どもが自由に遊ぶことができる場所が必要



ボランティアスタッフ40人が集まった居場所づくりイベント

大切にしたいこと①【地域の力で…】

この地域には、子育て世帯や子どもたちの居場所である「にじのとしょかん」や「青少年センター」、また地域の生活に欠かせない施設である「和泉診療所」や「北部総合福祉会館」など大切にしてきた場所がある。

今後もこのまちで大切にしてきたことを持続していくためには、地域住民が主体となって、地域に必要な場を、行政と連携しながらもにつくっていく。

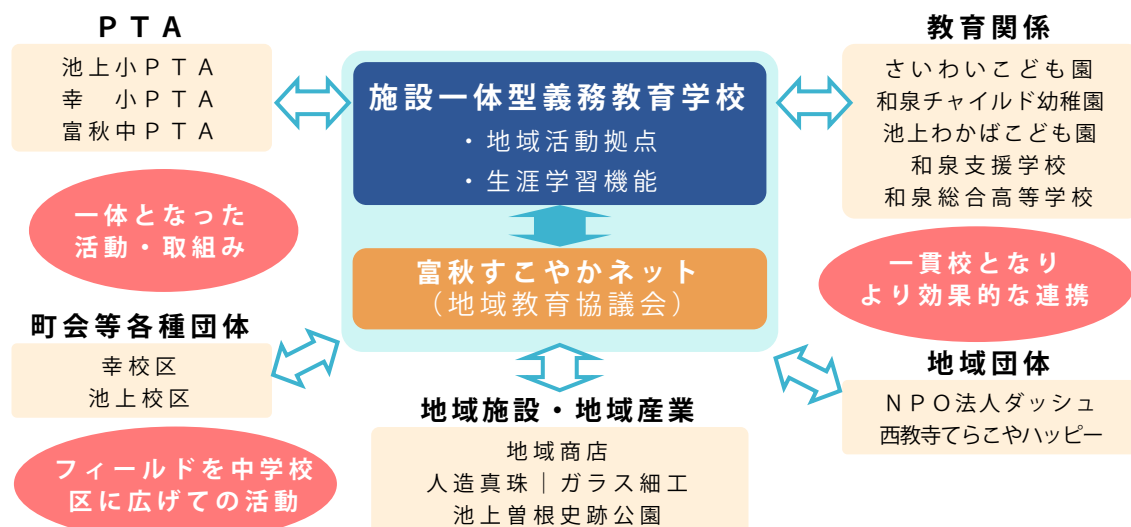
※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

学校・教育魅力づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ① 現・富秋中学校の位置に**施設一体型義務教育学校（以下「小中一貫校」）**を導入し、**魅力ある学校・教育づくり**を、**地域・保護者・学校・行政が一丸**で取組む
- ② 小中一貫校への**不安・懸念事項**は、「**開校前**」から**解消**に向けた取組みを行う
- ③ 「**地域と共にある学校**」をめざし、**学校を多用途に活用できるスペース**（集会・活動、図書室など）を設け**地域拠点**とする等、**地域と学校の日常的な関わりあい**を一層深める

■「地域と共にある学校」のイメージ



<特色・魅力ある学校・教育づくりの考え方>

- 施設一体型の特性を活かした教育を実施する
- 地域特性を活かした教育内容を充実させる
- 学校施設を多用途に活用し地域に開く（集会・活動スペース、図書室など）
- 具体的な内容等は、上記方針をもとに今後、協議の場を設け検討する



中学校教員による
小学生への専科指導



地場産業を生かした
キャリア教育



図書室の地域開放、地域
人材による読み聞かせ



放課後子ども教室など
の開催

＜小中一貫校への不安・懸念事項への対応の考え方＞

- 小中一貫校に対する理解を深めるような取組みを行い、地域の機運を高めていく
- 小中一貫校への不安・懸念事項は、「開校前」から、地域・保護者・学校・行政で解消するための検討を行い、取組みを実施する

主な不安・心配

対応の考え方

小学生と中学生がともに
過ごすことへの不安

○小中一貫の教育活動を通じた交流を充実
○小中学校教員による系統立てた指導・見守り

通学距離・通学時の
安全確保

○安全な通学路の整備
○小中のたてわり活動を活用した登下校活動

教員の負担増や子どもを
育む体制の弱体化

○教員をサポートする方法を検討
○地域との連携強化
(居場所づくり、コミュニティスクール等)

- 具体的な内容等は、上記の考え方をもとに今後、協議の場を設け検討する

＜役割分担のイメージ＞

●地域・保護者

- ・主体的な学校運営への参画
- ・地域の子どもの地域で育てる取組みの充実

●学校

- ・9年間を見通した教育課程づくり
- ・地域の特色を活かし、地域と連携した教育の実践

●行政

- ・魅力ある教育を実践するための学校教育環境の整備
- ・地域と学校の協働による教育活動への支援

◎意見（主なもの）

- ・和泉市のモデルとなる、通わせたいと思われる学校づくりを行いたい
- ・多世代交流が盛んな学校としたい。学習環境をよりよくすべき
- ・低学年の通学距離が延びる、大きな道路や線路を越えることが心配
- ・上級生の悪い影響を受けること、最高学年の自覚の低減が心配
- ・就学区域の設定についても考える必要がある
- ・教育の専門家の意見も聞いて学校づくりを行うべき



読書サークルや中高生が参加の
いずみブックフェスティバル

大切にしたいこと②【地域一丸で子育て・子育てを支援】

現在の富秋中学校がつくられた際、子どもを通わせたいと思われる学校づくりを行いたい、夢のある学校として、他の校区の「モデル」となるような学校づくりがめざされていた。また、学校だけでなく、子どもの教育問題について地域全体で考えていく気風のなかで開校した。

次代に引き継ぐ新しい学校も、独自の特色・魅力づくりを行い、地域と連携したまち全体で子どもの教育環境を作り上げていく。

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

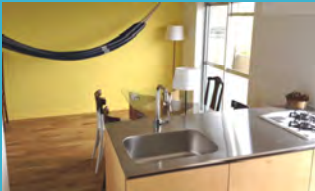
団地で子育てプロジェクト

<取組み方針>

- ①若者・子育て世帯を呼込むための**空き家改修、ルールの変更**を行う
- ②**空きスペースを活用**してみんなが**交流できる拠点**をつくり、地域が中心となって**子育てサポートや多世代交流の取組み**を実践し、拠点を運営する

■プロジェクトイメージ

①市営住宅空き家改修（若者入居）



②空きスペース活用（居場所づくり）



③地域活動（子育てサポート・多世代交流）



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・空き住戸・スペース活用方法を行政と協議・検討する
- ・運営組織をつくり、交流空間の利用ルールづくり、子どもや子育て世帯、福祉の相談の場、多世代交流事業・活動（例：子育てママの交流プログラム、食育活動、学習支援、遊び場づくり、朝市等のイベント、お店運営など）を実施する など

●行政

- ・①空き住戸の改修、ルール変更（DIY可能、集会所利用等）、②交流空間（デッキ・仮施設等）の整備により、みんなが気軽に立ち寄れる空間を整備する、③多様な人々が住める住環境づくり（例：入居基準の検討） など

◎意見（主なもの）

- ・団地を活用して、若者・子育て世帯の住み続け、新たな呼び込み、気軽に立ち寄れる場づくり を行うべき
- ・稼働率の低い集会所を親子連れで使える場所にするとところからはじめては
- ・子育てに関する相談や情報交換できる環境があるとよい

居場所づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①子どもと大人、親同士が信頼関係を築けるよう、誰でも参加可能な「**居場所づくりイベント**」を継続的に実施する
- ②イベント等を通じて、子育て・子育て活動などを支援する**仲間・ネットワークづくり**、高齢者などの**生きがいの場づくり**を行う
- ③子どもが**自由に遊ぶことができる広場・公園**をつくり、プレーパークなどの子どもが集まるしかけづくりを行う

■まちづくり構想づくりをきっかけにスタートした第1回居場所づくりイベント

日時：平成31年 1月27日（日）

場所：青少年センター

内容：①プレーパーク&棒パンづくり&鬼ごっこ

②読み聞かせ会&読み聞かせ講座

③節分仮装づくり&記念撮影

④無料カフェスペース(セルフ)

結果：参加者 101名（大人 53/子ども 48）

+スタッフ約 40名



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・まちのさまざまな場所での「居場所づくりイベント」を継続開催する
- ・イベント等を通じた子育て・子育てなどの活動を支援する仲間・ネットワークづくり
- ・空きスペースなどを活用した拠点づくり+活動組織づくりを検討する
- ・拠点を活用した居場所づくり活動を実施する など

●行政

- ・団地空間などでの居場所となる拠点を整備する
- ・地域のイベント・活動時における公共用地・施設の利用協力 など

◎意見（主なもの）

- ・参加者の声も聞き、このまちに合う活動をつくっていききたい
- ・まずは顔の見える関係の「きっかけ」ができれば
- ・周辺地域からも「いいね」と思ってもらえるよう情報発信も

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

安心・安全暮らしプロジェクト

<取組み方針>

- ①地域にあるさまざまな**福祉活動・防災活動の情報と活動する人材を連携させるネットワーク**をつくり、**活動の連携や人的交流・育成**を行う
- ②地域でさまざまな福祉活動・防災活動が行われていることを知ることができるよう、地域の**福祉活動・防災活動に関する情報を集約してまとめて発信**する
- ③子どもや若者・子育て世帯などが、**普段から助けあい・支えあいの輪に参加**できるように、**高齢者や障がい者と日常的に接する機会**を増やすしかけづくりを行う
- ④**市営住宅を活用**し、**高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせる住まい・拠点**をつくる

■「協議の場」*において今後の福祉活動の優先順位として挙げられた取組み

<池上校区>		<幸校区>	
1	協議の場		協議の場
2	カフェサロン（地域交流の場）		防災対策
3	見守り事業（配食・訪問）		見守り事業（配食・訪問）
4	防災対策		ふれあいモーニング（地域交流の場）
5	いきいきサロン（体操・清掃活動等）		社協・ボランティア活動のPR
6	空き家対策		敬老イベント（地域交流の場）
7	小学生福祉講座（車いす疑似体験等）		認知症サポーター養成講座
8	エプロン・Tシャツ作成（支援者に配布）		カラオケ介護の支援
9	認知症サポーター養成講座		いきいきサロン（地域交流の場）

* 地域の福祉活動のありかたを議論する場。和泉市内の各小学校区ごとに「協議の場」が設置されている。

<役割分担のイメージ>

●地域

- ・各団体の福祉活動・防災活動の情報と人材のネットワークづくり、連携活動・人材交流・情報発信
- ・多世代交流事業・活動を実施する など

●行政

- ・高齢者・障がい者が安心して暮らせる住まい・拠点の整備
- ・防災対策の充実、避難拠点の整備 など

◎意見（主なもの）

- ・活動を知らない人、参加しにくい人へ活動情報を伝えることが必要
- ・福祉活動を活発にするには人づくり
- ・関心ある人向けに合同セミナーを開催
- ・コミュニティごとに拠点を つくる
- ・民間の支援施設のサポートも必要

大切にしたいこと③【地域住民の福祉】

池上・幸の両校区では、協議の場や、老人クラブ、すこやかリビングなど、地域住民が互いに支えあう精神が脈々と受け継がれてきている。

その想いを引き継ぎながら、支えあいが自然に生まれる多世代交流の場づくり、誰でも参加できる居場所づくり、互いの活動の情報を相互交換できる体制づくりを進めていく。



池上わかばこども園児との
いきいきサロン交流会

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

にぎわいづくりプロジェクト

<取組み方針>

- ① **地元商業者等が連携**し、来街する外国人宿泊客の購買・文化体験機会をつくる
- ② 地場産業のガラス細工・人造真珠、池上曾根史跡公園などの歴史資源を活用した **観光魅力創出プロジェクト**を実施し、**地域ブランド**をつくる
- ③ 地域の歴史を学ぶ場づくりや、**伝統を次世代に継ぐ者を育成**する取組みを行う
- ④ 住民主体で**地域の魅力・情報を発信する仕組み**をつくる

■商店主等との連携による購買・文化体験機会づくりのプロジェクトイメージ

- ・外国人観光客への「日本人の日常体験」（アクティビティ）の提供と「地域の活性化」のため、“ホテル”と“商店街”が提携
- ・地域全体を“大きなホテル”に見立て、宿泊客は日本人が日常利用する**飲食店**での**飲食**や**文化体験**を楽しむ



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・（仮称）地域丸ごとホテルプロジェクトの検討・実践
- ・地場産業（ガラス細工・人造真珠）や歴史資源を活かしたブランド化づくりの検討・実践
- ・信太山盆踊りやだんじり祭などの伝承文化の保存・継承・活性化
- ・そのほかの地域課題の協議・検討（駐車場など） など

●行政

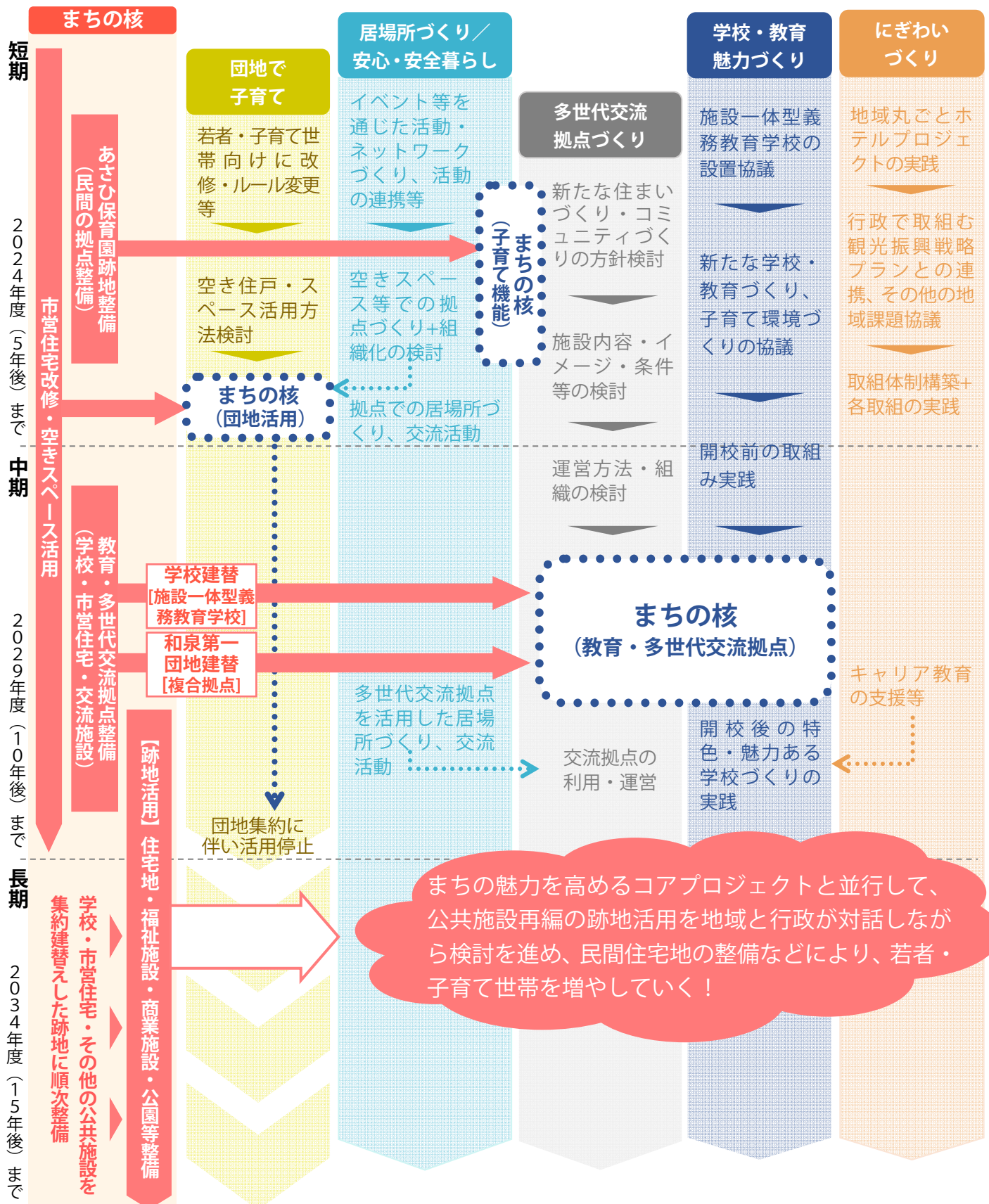
- ・和泉市観光振興戦略プランに基づくガラス細工・人造真珠を活かしたブランド化づくりの支援
- ・地域課題解決にむけた各種支援 など

◎意見（主なもの）

- ・個人商店同士が協力して新たな観光資源をつくれるとよい
- ・地場産業は、観光向けの体験の場、地域教育としての販売体験づくり両面で活かすべき
- ・スポーツ施設など新たな観光資源になるものをつくる視点も必要。新たな雇用にもつながる
- ・団地内店舗の業種替えを可能とするルールづくり等、新たに商売できる環境をつくるべき

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

【「まちの核」と【コアプロジェクト】によるまちづくりの流れ】



※時期はたたき台であり、構想策定後に地域での話し合いや、地域と行政での対話を行い、時期を定めていきます

※ここに挙げた【コアプロジェクト】は、現時点で想定されるものであり、これで全てではありません。構想策定後も引き続き議論していくなかで、新たなプロジェクトの立ち上げを想定しています

段階1

まちの核:「市営住宅の改修による交流拠点」

学校再編・複合拠点
づくりの準備

多世代交流
拠点づくり
(あさひ保育園跡地)

団地で
子育て

下記プロジェクトはまちのさまざまな場所で展開

居場所づくり 安心・安全暮らし にぎわいづくり

段階2

学校・教育
魅力づくり

多世代交流
拠点づくり
(複合拠点)

まちの核:
「教育・多世代
交流拠点」



5つのプロジェクトを先行して進めます。とくに、多世代交流拠点プロジェクトでは先行してあさひ保育園跡地に**子育て機能を誘致**し、**団地で子育てプロジェクト**では団地を活用した**小さな拠点をつくり誰でも来られる居場所づくりを進めます**。

並行して**学校・教育魅力づくりプロジェクト**、**多世代交流拠点づくりプロジェクト**（複合拠点）の準備を進めます。

和泉第一団地の集約建替、施設一体型義務教育学校の設置とあわせて、**多世代交流拠点づくりプロジェクト**、**学校・教育魅力づくりプロジェクトを進め**、「まちの顔」となる**交流拠点を整備**します。

この施設の運営に地域が参画することで**活躍の場**の創出、**子育て・子育てを支援する環境を整えます**。

段階3

安心・安全に
通える通学路

まちの核:

例: 民間住宅地、福祉施設、商業施設、公園、防災施設



まちの核 (候補)
(現・和泉診療所)
(現・北部総合福祉会館)

うるおいのある
散歩道

まちの核 (候補)
(現・人権文化センター)

市営住宅や学校をはじめとした公共施設の再編**跡地**は、地域と行政の対話により活用検討を行い、**民間住宅地、福祉施設、商業施設、公園、防災施設など、まちに必要な機能を整備**。まちの魅力を高めます。

歩いて安心・安全な通学路、快適になる通りを整備し、コンパクトで歩いて暮らしやすいまちとしていきます。

段階4

駅や周辺の活性化



複数の「まちの核」と**コアプロジェクト**によりまちがにぎわうことで、さらなる**定住化、駅および駅周辺の開発・活性化**が期待できるようになります。

それをきっかけに**周辺地域を巻き込んだまちづくり**に発展させることで**住みたいと思われるまちへと変化**していきます。

6

実現と発展に向けた持続可能な体制

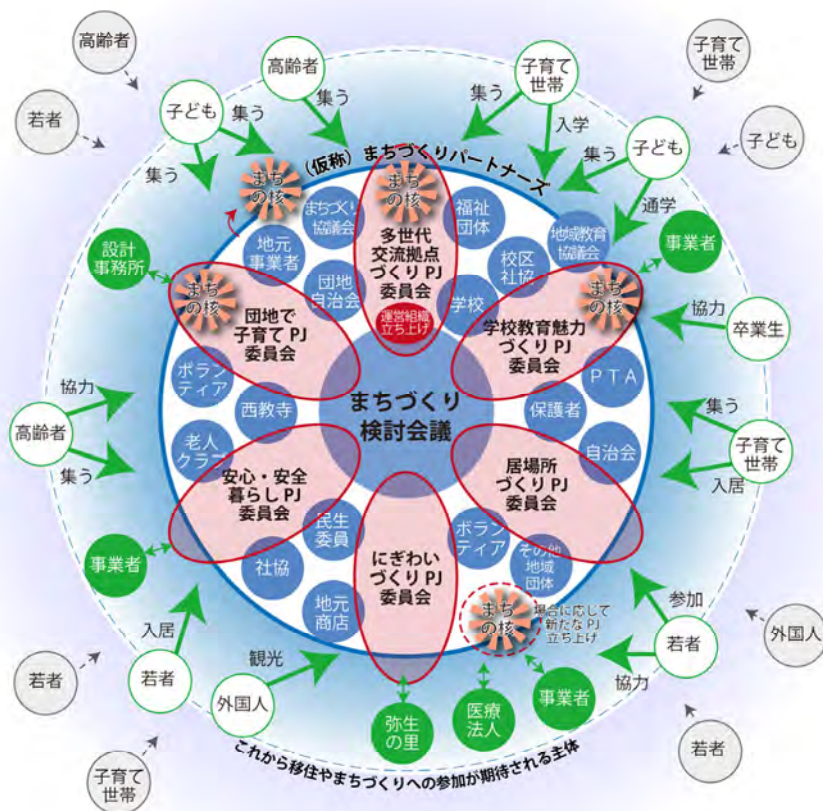
富秋中学校区等のまちづくりは、自治会・町会、校区社協、民生委員・児童委員、PTA、ボランティアグループ等、**校区単位の団体・個人活動**により支えられています。

まちづくり構想を実現するため、引き続き**これらの活動を基本**としつつ、さらに、①**池上・幸校区の2つの校区が相談し周辺校区とも連携しながら**、②**住民・地域団体を主役**に、③**行政・学校・事業者等と力を合わせる**ことで、地域をみんなで支える仕組みを再構築していきます。

■構想実現に向けた基本的な考え方



■体制のイメージ



そのために行う5つの体制づくり

1

構想実現に向けてまちづくりを考え抜くため、まちの代表者が集う「富秋中学校区等まちづくり検討会議」を推進母体とします

- 検討会議では、構想の管理、プロジェクト実施の調整・決定、行政との対話、まちづくり情報の発信等を行います

2

まちづくりのネットワークを「見える化」するため、まちづくりに関わる方を「(仮称) まちづくりパートナーズ」として登録します

- パートナーズは、まちづくりに関わる団体・個人であれば誰でも登録可能なものとします

3

みんなでプロジェクトを検討・実践するため、関係者（住民・事業者など）誰でも参加できる「プロジェクト委員会」をつくります

- 委員会メンバーは構想を実現する実行メンバーです。参加者は全員が事業の実施や支援に関わることを想定しています

4

質の高い「まちの核」づくりを進めるため、行政やさまざまな事業者との連携をはかります

- 事業者の意向も把握しつつ、公募形式や官民連携プロジェクトなどより良い方法で整備等を進めます

5

将来つくる拠点を地域自らが主体性をもって運営するため、運営組織を新たに立ち上げます

- 運営組織を新たに立ち上げ、運営することも視野に入れて体制整備を進める

参 考 1

「富秋中学校区等まちづくり検討会議」委員名簿

順不同 敬称略

氏 名	所属・役職	検討会議の役職
町会・自治会関係		
沼間 吉男	富秋町会 会長	
中澤 利子	大宝自治会 会長	
久保山 一造	昭和住宅自治会 前会長	
藤岡 仁史	昭和住宅自治会 会長	
向井 光男	幸校区 校区会長	会 長
藤原 常雄	幸一丁目自治会 会長	
松下 洋司	幸二丁目自治会 会長	副会長
金田 隆二	幸三丁目自治会 会長	
片岡 タツ子	丸笠団地自治会 会長	
北村 隆志	王子町町会 会長	
澤村 直幸	伯太校区 校区会長	幹 事
横田 信	伯太町第四町会 会長	幹 事
子育て関係		
西口 直利	池上小学校ＰＴＡ 顧問	
瀧 妙子	池上小学校ＰＴＡ 会長	
吉本 智恵	幸小学校ＰＴＡ 会長	
中村 貴代	幸小学校ＰＴＡ 副会長	
平松 麻美	富秋中学校ＰＴＡ 前顧問	幹 事
伊藤 卓志	富秋中学校ＰＴＡ 会長	幹 事
大谷 幸恵	さいわいこども園 園児保護者	
産業・商業関係		
佐竹 保彦	佐竹ガラス株式会社 代表者	
南 肇	池上曾根遺跡史跡公園協力会 会長	
地域団体関係		
浅井 了明	阿耨山 西教寺 住職	
伊藤 感道	社会福祉法人 女子慈教寮 理事長	
一井 正次	和泉市民生児童委員協議会池上地区委員長	幹 事
亀谷 明菜	和泉チャイルド幼稚園 副園長	
亀谷 聖樹	和泉チャイルド幼稚園 事務局長	幹 事
橋本 健次	池上わかばこども園 園長	
森 尚樹	幸王子まちづくり協議会 事務局長	事務局長
寺西 広文	和泉市人権協会 事務局長	
瀧 剛志	ＮＰＯ法人ダッシュ 理事	幹 事
河村 若義	泉州盆踊り保存会	
奥野 茂寿	富秋中学校学校協議委員	
竹中 正夫	富秋中学校学校協議委員	

(令和2年1月時点)

これまで検討会議に委員として携わっていただいた皆様

氏 名	委員当時の所属・役職
田中 耕作	池上校区 校区会長
南 三郎	池上校区 校区会長
桃田 千代彦	池上町第一町会 会長
坂口 正勝	ひまわり自治会 会長
福井 利一	富秋町会 会長
柴田 垂実	大宝自治会 会長
一井 千代	幸小学校PTA 副会長

参 考 2

「まちづくり構想（地域案）」策定に向けた会議等の開催経緯等

（１）「まちづくり構想」策定に向けた流れ

平成 30 年 2 月～ 4 月

- ・まちづくり検討会議設置
- ・住民ワークショップでまちの意見収集

平成 30 年 5 月～

延べ 30 回以上

- ・検討会議と専門部会で個別テーマを議論
- ・居場所づくりの試行イベントも開催！
- ・並行して、先進地見学会を実施
- ・事業者にもヒアリング（跡地活用） 等

構想としてまとめる内容

地域課題の整理

このまちに必要な機能

まちの目標像

将来のまちの姿

取組みの方針・内容 など

平成 30 年 6 月～令和元年 12 月

- ・検討会議でまちづくり構想（地域案）を検討
- ・まちづくり構想（地域案）の地域説明会を開催（令和元年 12 月）
- ・住民アンケートを実施

令和 2 年 1 月

- ・検討会議で「まちづくり構想（地域案）」をとりまとめ

令和 2 年 3 月末頃

- ・和泉市が、地域案の内容を精査して、「富秋中学校校区等まちづくり構想」として策定

（２）検討体制

検討会議 …住民、地域の団体等の代表者

- ・「まちづくり構想（地域案）」の策定主体
- ・選任された委員（＝地域の代表者）で構成

専門部会

- ・子育て・教育／住環境・コミュニティ／福祉／地域活性化 の 4 つの部会を設置し、個別内容を検討
- ・委員以外の住民等も自由参加

住民ワークショップ等

- ・住民等が自由に参加する議論の場

サポート

和泉市（＋コンサル）

↑サポート

↑

(3) 会議等の開催経緯

■富秋中学校校区等まちづくり検討会議

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年2月10日	・市長あいさつ ・和泉市公共施設等総合管理計画の概要について ・検討会議の主旨について ・規約（案）について ・役員の選任について ・富秋中学校校区等の現状について ・当面の進め方とスケジュールについて ・ワークショップについて	21
第2回	平成30年3月14日	・第1回ワークショップについて ・第2回ワークショップについて	17
第3回	平成30年4月9日	・委員・役員の交替について ・設置する専門部会について ・専門委員について	22
第4回	平成30年4月23日	・第2回ワークショップについて ・設置する専門部会について ・幹事・部会長の選任について ・市営住宅入居者アンケートの結果報告	17
第5回	平成30年10月31日	・部会での検討状況について ・まちづくり構想に向けた今後の進め方について ・民間事業者サウンディング調査の実施について ・居場所づくりプロジェクトの実施について	15
第6回	平成31年1月24日	・部会での検討状況について ・まちづくり構想に向けた今後の進め方について ・今後のまちの生活機能と施設のあり方について ・居場所づくりプロジェクト（第1回）の準備状況	12
第7回	平成31年3月28日	・部会での検討状況について ・サウンディング調査の結果について ・将来のまちの姿について ・今後の予定について ・居場所づくりプロジェクト（第1回）の報告	14
第8回	令和元年6月13日	・委員の交替について ・部会での検討状況について ・まちづくり構想（骨子案）について ・今後の予定について	17
第9回	令和元年9月30日	・委員の追加について ・まちづくり構想（地域案）について ・今後の予定について ・居場所づくりプロジェクト（第2回）の企画	14

	時期	内容	出席者数
第 10 回	令和元年 10 月 23 日	・委員の追加について ・まちづくり構想（地域案）について ・今後の予定について ・地域説明会について ・まちづくり構想アンケートについて ・居場所づくりプロジェクト（第 2 回）の準備状況	19
第 11 回	令和元年 11 月 28 日	・まちづくり構想（地域案）について ・今後の予定について ・地域説明会について ・まちづくり構想アンケートについて ・居場所づくりプロジェクト（第 2 回）の報告	17
町会・自治会長説明	令和元年 12 月 17 日	・まちづくり構想（地域案）策定の経緯説明と今後の予定 ・まちづくり構想（地域案）について ・まちづくり構想アンケートについて	8
地域説明会	令和元年 12 月 21 日 （昼・夜の 2 回開催）	・まちづくり構想（地域案）策定の経緯説明と今後の予定 ・まちづくり構想（地域案）について ・まちづくり構想アンケートについて	25
第 12 回	令和 2 年 1 月 23 日	・地域説明会の結果について ・住民アンケートの結果について ・まちづくり構想（地域案）について ・今後の予定について	18
第 13 回	令和 2 年 1 月 26 日	・まちづくり構想（地域案）の提出	15

■専門部会＜子育て・教育部会＞

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年5月22日	・部会テーマと進め方について ・富中校区の子育て・教育環境の課題	28
第2回	平成30年6月19日	・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の情報提供①（なぜ検討が必要か等の背景、施設一体型義務教育学校（小中一貫校）で期待する効果） ・地域の子育て環境について	26
第3回	平成30年7月21日	・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の情報提供②（南松尾はつが野学園 現地見学会）	11
第4回	平成30年8月21日	・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の情報提供③（南松尾はつが野学園 PTA との意見交換）	18
第5回	平成30年9月18日	・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の情報提供④（他市の事例紹介）	19
第6回	平成30年10月16日	・検討状況報告会での周知方法について ・地域の子育て環境について ・居場所づくりプロジェクトの企画実施について	24
保護者向け説明会	平成30年10～11月	※3こども園（さいわい・池上わかば・チャイルド）での施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の検討状況に関する説明会	33
検討状況報告会（地域説明会）	平成30年11月18日	※人権文化センターでの検討状況報告会 ・まちづくり検討会議等の取組みについて ・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）検討の背景について ・施設一体型義務教育学校（施設一体型義務教育学校（小中一貫校））での教育内容について（事例を参考に） ・今後の検討の進め方	26
第7回	平成30年12月18日	・情報提供会の開催結果報告（アンケート結果等） ・部会等の周知、参加呼びかけ方法について ・居場所づくりプロジェクトの企画内容について	23
第8回	平成31年1月16日	・施設一体型義務教育学校（小中一貫校）検討のために議論すべきテーマ ・居場所づくりプロジェクトの準備状況について	15
保護者向け説明会	平成31年2月	※3校（池上・幸・富秋）の授業参観日やPTA役員会に、掲示+資料配布・説明で検討内容を紹介	-
第9回	平成31年2月19日	・懸念事項等の解消に向けた学校・地域・保護者による取り組み／ ・居場所づくりプロジェクト（第1回）の報告	19
第10回	平成31年3月19日	・富秋中学校区で施設一体型義務教育学校（小中一貫校）とする場合に想定される教育内容	24

	時期	内容	出席者数
検討状況報告会（地域説明会）	平成 31 年 4 月 21 日	※人権文化センターでの検討状況報告会 ・まちづくり検討会議、子育て・教育部会のこれまでの取組みについて ・子育て・教育部会で挙げている主な意見紹介 ・富秋中学校区で想定される施設一体型義務教育学校のイメージ ・今後の予定	12
第 11 回	平成 31 年 4 月 24 日	・富秋中学校区の子育て・教育環境について（とりまとめ）	19

■専門部会＜住環境・コミュニティ部会＞

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年5月31日	・部会テーマと進め方について ・まちの目標像、このまちに必要な住宅・施設、コミュニティのあり方などについて	26
第2回	平成30年8月31日	・市営住宅の建替・改修について（事例を参考に） ・地域が抱える課題、まちのテーマ・あり方、まちづくりの進め方などについて	28
第3回	平成30年9月27日	・今後の住環境やまちに関する基本的な考え方について（市から考え方を提示） ・基本姿勢、取組みの方向性、主な取組みについて	21
第4回	平成31年2月27日	・今後のまちの生活機能と施設のあり方について ・多世代が住む・交流する複合拠点の生活機能・サービス・活動のイメージについて	24
第5回	令和元年5月7日	・「まちの核」となる多世代が住む・交流する複合拠点のあり方、機能・規模・今ある公共施設との関係、他の「まちの核」とのつなぎ方について	22

※第4回・第5回は福祉部会と合同開催

■専門部会＜福祉部会＞

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年6月4日	・今の地域福祉の課題や将来のあり方などについて	24
第2回	平成30年12月6日	・部会の進め方について ・「協議の場」の議論の状況について ・地域の福祉に関する取組み課題について	15
第3回	平成31年2月27日	・今後のまちの生活機能と施設のあり方について ・多世代が住む・交流する複合拠点の生活機能・サービス・活動のイメージについて	24
第4回	令和元年5月7日	・「まちの核」となる多世代が住む・交流する複合拠点のあり方、機能・規模・今ある公共施設との関係、他の「まちの核」とのつなぎ方について	22

※第3回・第4回は住環境・コミュニティ部会と合同開催

■専門部会＜地域活性化部会＞

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年5月28日	・地域活性化のアイデアなどについて	33
第2回	令和元年5月14日	・「地域まるごとホテル」プロジェクト構想について（これまでの意見・事例を参考に）	19

■住民ワークショップ

	時期	内容	出席者数
第1回	平成30年3月3日	・まちのよいところ（魅力・資源） ＋それを活かすアイデア ・まちの直したいこと＋解決方法	54
第2回	平成30年4月15日	・テーマごとの意見・アイデア出し テーマ① 今ある施設・空間を活かす テーマ② 地域資源・魅力を広く発信する テーマ③ 公共施設の未来を考える テーマ④ 学校・教育環境を考える	47

■居場所づくりプロジェクト（イベント）

	時期	内容	出席者数
第1回	平成31年1月27日	① プレーパーク&棒パンづくり&鬼ごっこ ② 読み聞かせ会&読み聞かせ講座(大人向け) ③ 節分仮装づくり&記念撮影(写真プレゼント) ④ 無料カフェスペース(セルフ)	101
第2回	令和元年11月23日	① プレーパーク&棒パンづくり ② こどもバザー&おとなバザー ③ 無料カフェスペース(セルフ)	110

■見学会

	時期	内容	出席者数
第1回	令和元年6月28日	①大阪府住宅供給公社茶山台団地見学 （茶山台としょかん、やまわけキッチン） ②堺市立人権ふれあいセンター	7



まちづくり検討会議（第1回）



住民ワークショップ（第1回）



専門部会（子育て・教育部会（第2回）



専門部会（住環境・コミュニティ部会（第3回）



専門部会（福祉部会（第1回）



専門部会（地域活性化部会（第1回）



南松尾はつが野学園見学会



検討状況報告会（子育て教育部会）



居場所づくりイベント（第1回）



居場所づくりイベント（第2回）

参 考 3

「まちづくり構想（地域案）」に関するアンケート調査

（１）調査の概要

①調査目的

- ・「まちづくり構想（地域案）」に示しているまちづくりを今後進めていくことについて、富秋中学校区等の住民の意向を把握するとともに、意見を「まちづくり構想（地域案）」や今後のまちづくりに反映するため。

②調査対象

- ・富秋中学校区及び伯太団地・王子第一団地・王子第二団地に住む 5,140 世帯のうち、無作為抽出した 2,200 世帯に調査票を配布。
※令和元年 12 月 21 日に開催した、まちづくり構想（地域案）に関する「地域説明会」の参加者にも調査票を配布し、上記調査対象世帯と区別して集計。

③調査時期

- ・令和元年 12 月 11 日（発送日）～12 月 27 日
※地域説明会は令和元年 12 月 21 日の午前・夜に計 2 回開催

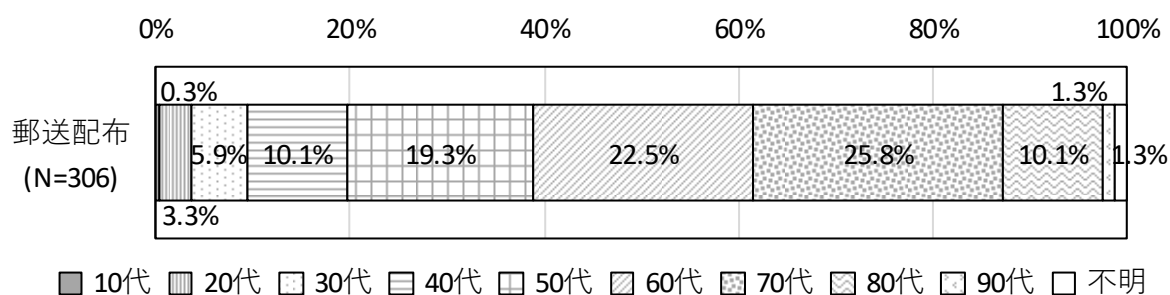
④配布・回収数

配布方法	配布数	回収数	回収率
郵送配布	2,200	306	13.9%
地域説明会にて配布	—	10	—

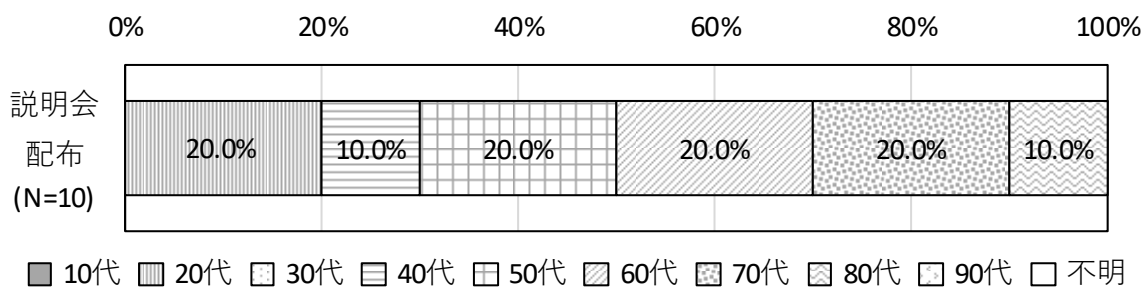
(2) 調査結果

ご自身について

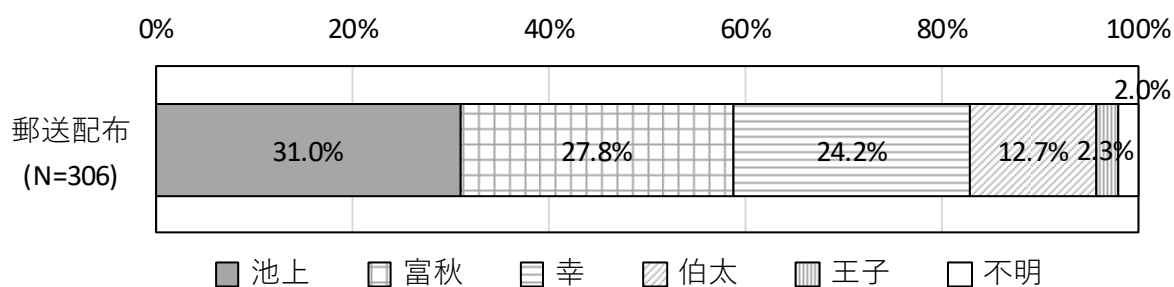
問1 年齢



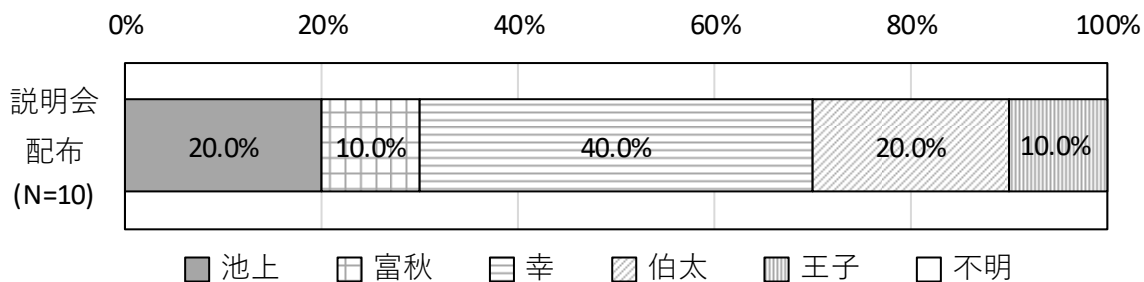
(参考) 地域説明会



問2 現在お住まいの町名

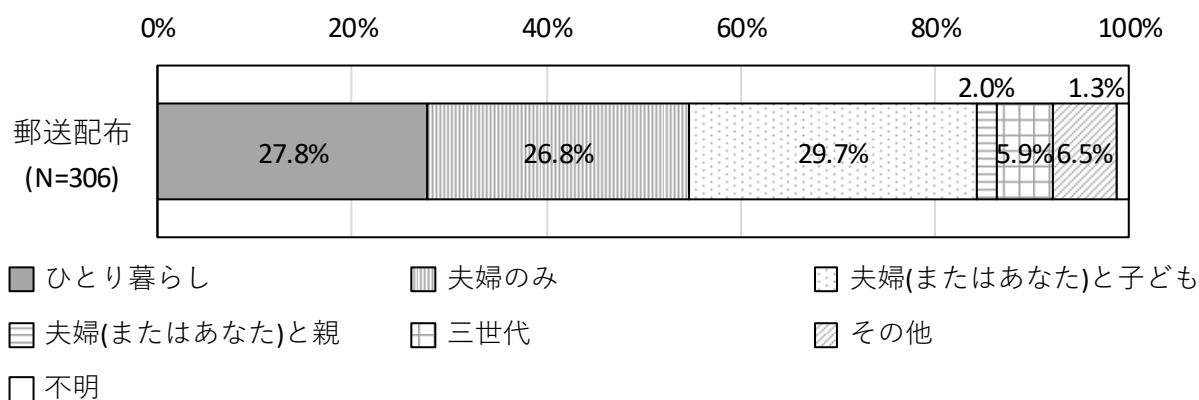


(参考) 地域説明会

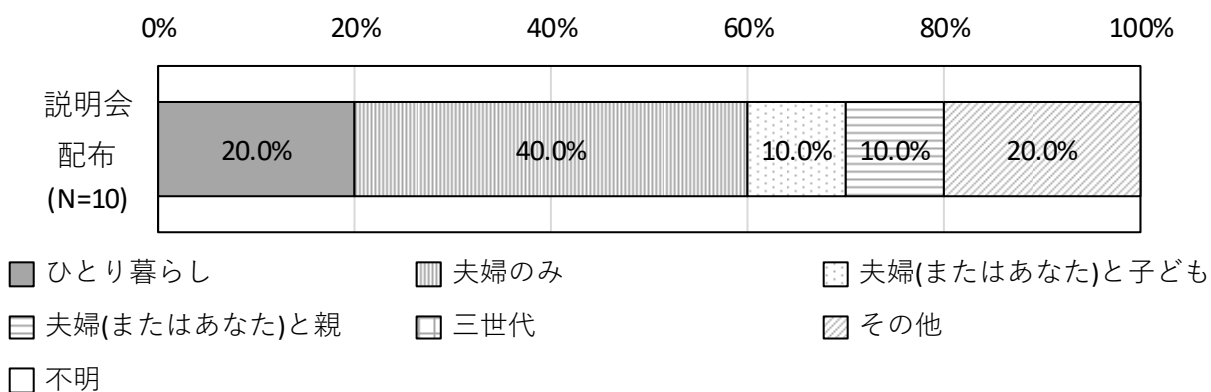


※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

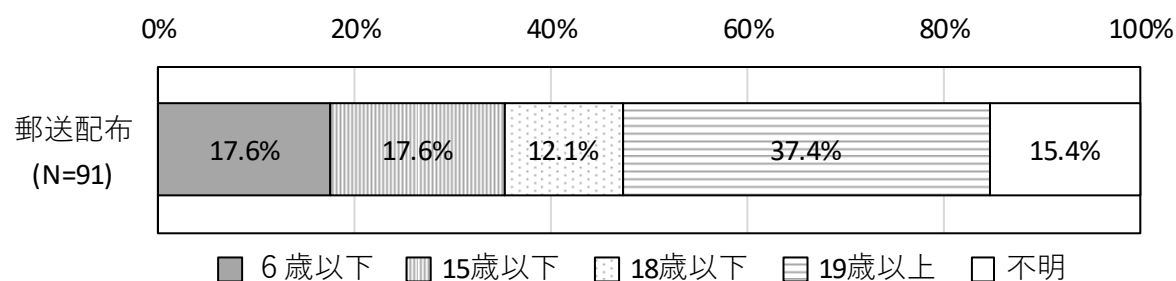
問3 家族構成について



(参考) 地域説明会



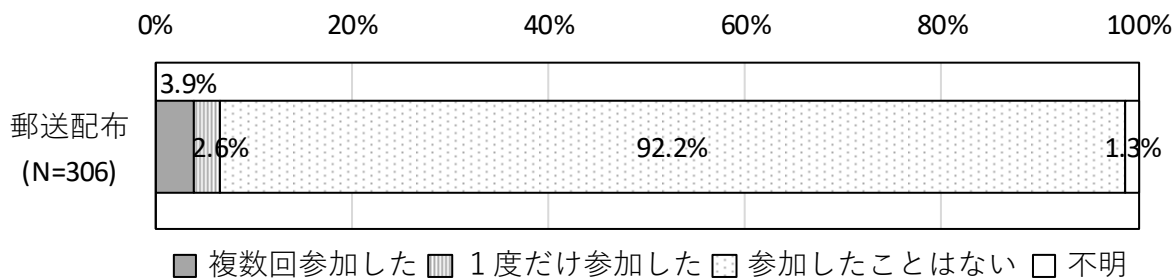
■家族構成が「3. 夫婦と子ども」の場合の一番下の子の年齢



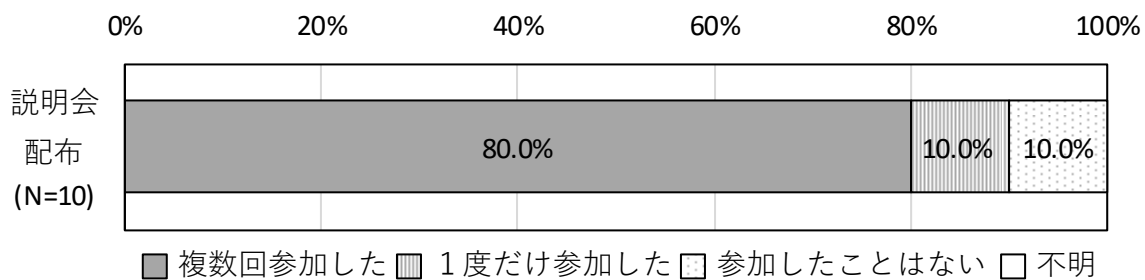
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

「富秋中学校区等まちづくり検討会議」について

問4 専門部会・ワークショップへの参加状況



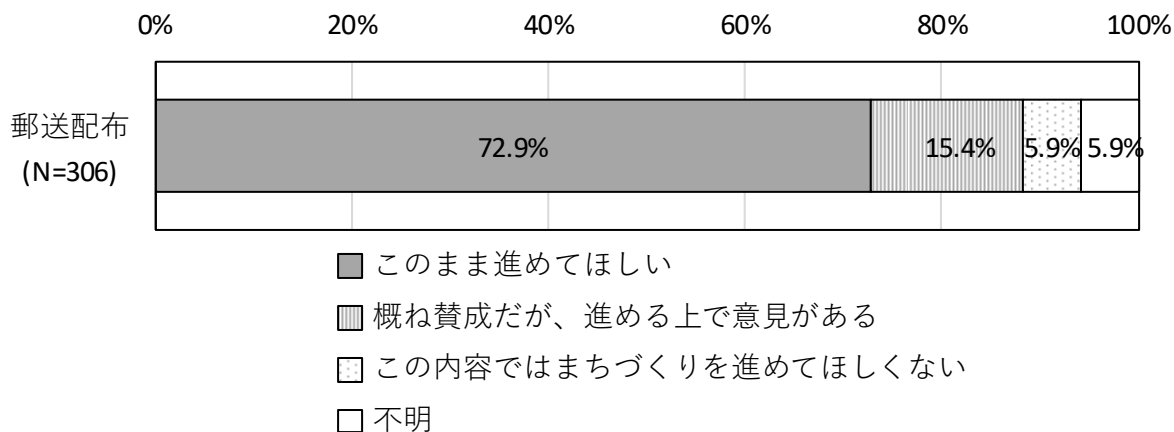
(参考) 地域説明会



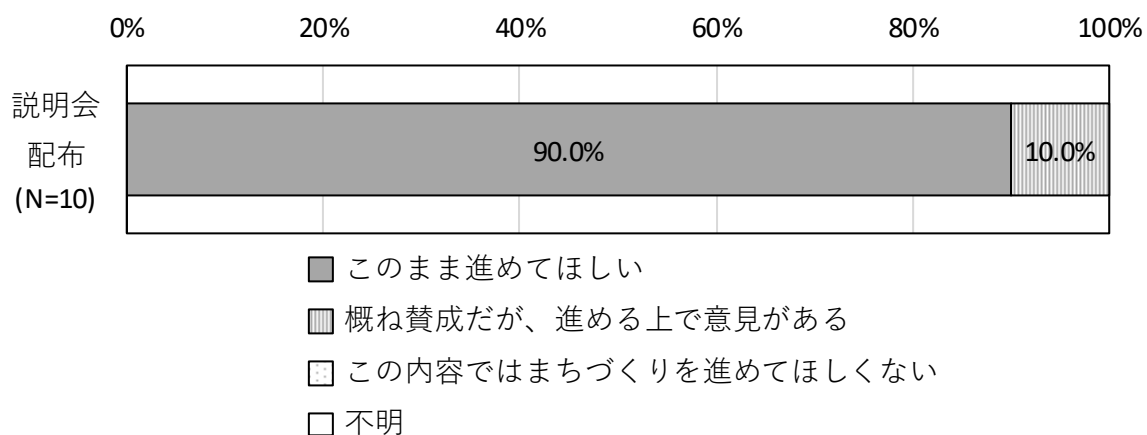
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

まちづくり構想（地域案）について

問5 資料で示すような内容で、今後のまちづくりを進めていくことについて



（参考）地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・より多くの意見を聞いて反映してほしい（4件）
- ・もっと具体的な内容が知りたい（3件）
- ・地域内で偏りなく進めてほしい
- ・優先順位を決め、1つに絞った方がよいと思う
- ・小中一貫校には抵抗がある。池上小は残してほしい、今のままで少人数の良さ（教員が目を配れる、運動会）がある等（4件）
- ・小中一貫校は誰もが入学できるようにすべき
- ・学校に高齢者を常駐させ、生徒の悩み相談役としてはどうか
- ・防災拠点（6m以上の津波に耐える構造の校舎）をつくってほしい（2件）

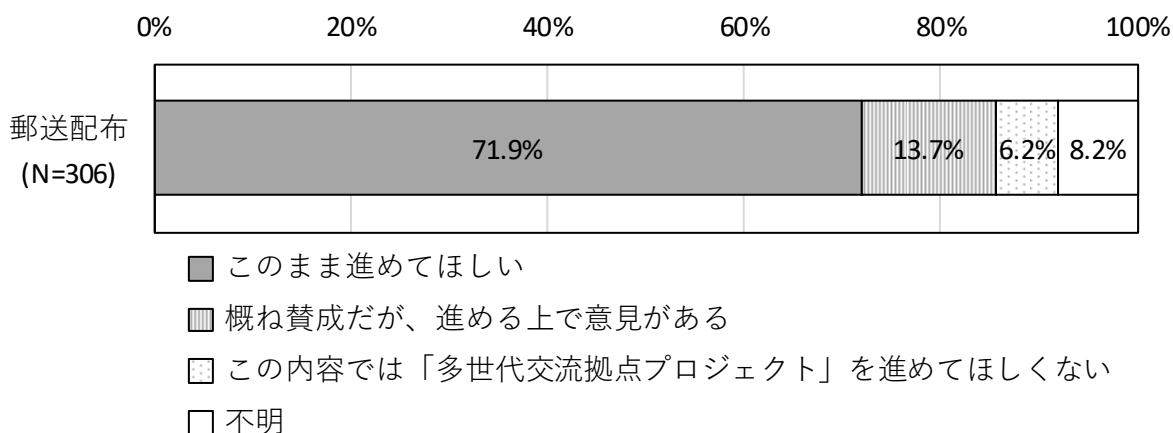
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・子育て世代が遊べる公園を整備してほしい
- ・多世代交流拠点のあるべき場所が気になる
- ・丸笠団地も“まちの核”に入れてほしい
- ・新しい施設は自然やぬくもりを感じる外観で。第1印象が大事（2件）
- ・高齢者への配慮が必要、訪問看護ステーションへの組み入れが必要
- ・老朽化した住宅の建替えを優先してほしい（3件）
- ・市営住宅周辺の雑草処理は高齢者だけではできず対策が必要
- ・商工祭りは前まで通り池上遺跡公園で開催すべき
- ・道路の整備が必要
- ・交通渋滞や、騒音、ゴミ処理対応が必要
- ・伯太町も何とかしてほしい
- ・予算の詳細を報告してほしい
- ・PFI事業を取り入れてやってほしい

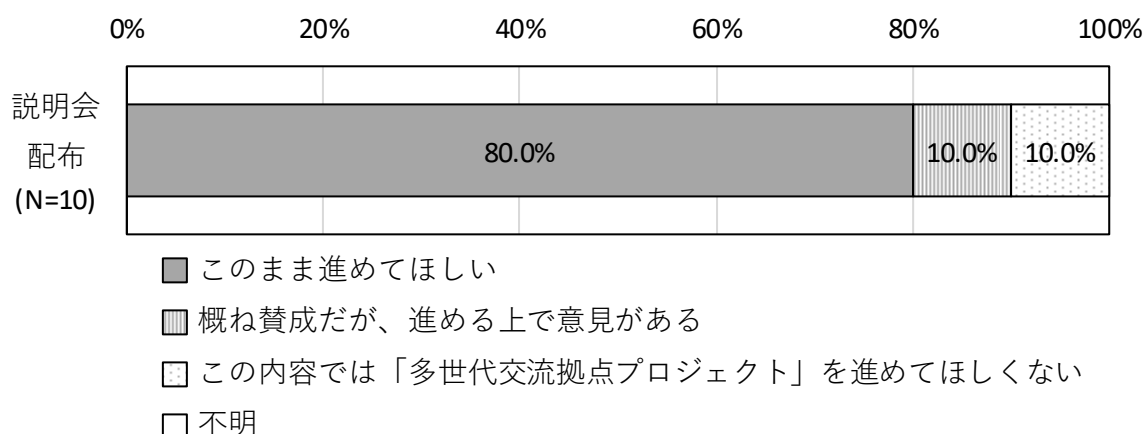
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・幸小との合併は反対。小学校が遠くなる（2件）
- ・池上小は残してほしい
- ・もっと未就学児童が地域に定着するような企画をすべき
- ・池上町から公共施設が遠くなる
- ・まちづくりを進めることで、まちが変わる事に残念な気持ち。昔のままだがよい
- ・器をつくっても魂が入るか疑問
- ・IT・AIなど幅広い解決法を支援すべき
- ・成功するとは思えない
- ・市の勝手にしかないと思う

問6 プロジェクト1「多世代交流拠点づくりプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・もっと具体的な内容が知りたい（3件）
- ・場所の再検討が必要（3件）
- ・多世代交流拠点の場所は、人権文化センターの方が交通の便もよく多世代が参加しやすいのではないかと
- ・丸笠団地も山手地区の拠点に追加してほしい
- ・子育て世帯を全面応援できる自慢のまちにしたい
- ・子ども達がのびのびボールで遊べる場所にしてほしい
- ・周辺地域との交流を進めるために、隣組町会組織が必要
- ・市営住宅を建替えても、本当に人は集まるのか（2件）
- ・市営住宅はもっと明るく今風に建替えないと人も集まらないと思う。
- ・周辺道路が整備されないまま建替えても人は集まらない

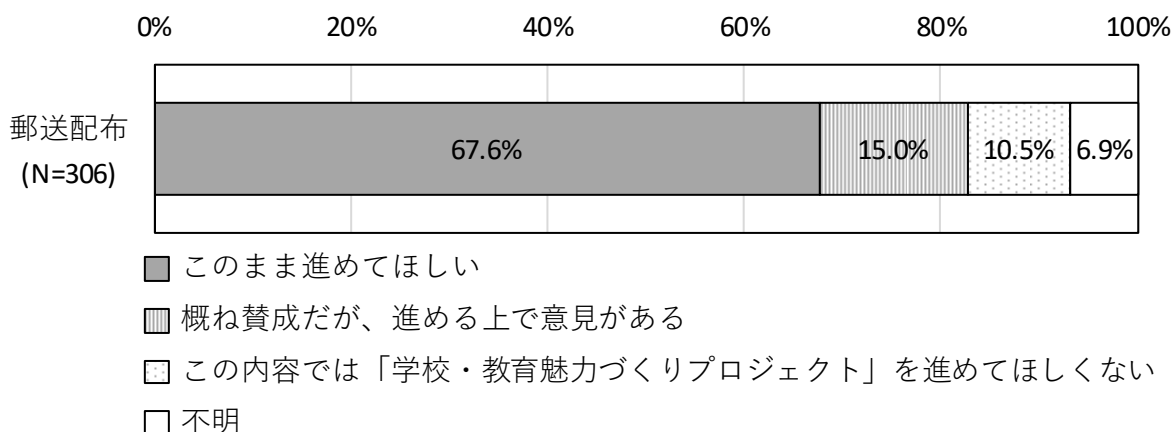
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・市営住宅跡地にマンションをつくり、幸の古いイメージを変えてほしい
- ・市営住宅をある程度分散させ戸建て住宅を増やす
- ・市営住宅は気密性や防音性の高い住宅、全棟エレベーター設置の住宅に建替えてほしい
(2件)
- ・市営住宅は建替えだけでなくリフォームも検討してほしい
- ・市営住宅入居者の意見を聞いて進めてほしい
- ・家賃や広さなどこれまでと変わらない生活ができることを望む
- ・セキュリティ対策をしてほしい
- ・建替える住宅以外の住宅が心配
- ・警察を常駐するなど、学校のいじめ対策を考えてほしい
- ・無駄なお金をかけずに進めてほしい
- ・投資効果・費用対効果を明記して進めるべき

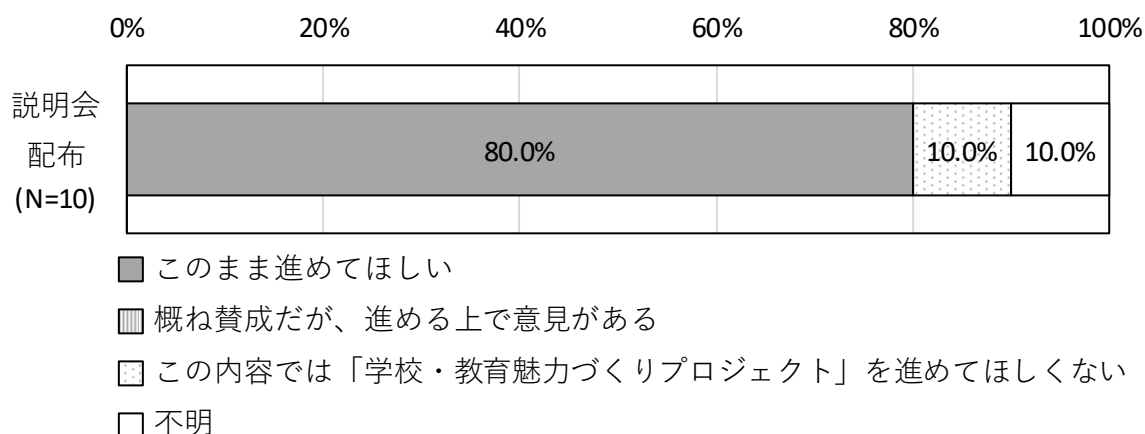
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・交流拠点づくりは難しいのではないか。必要を感じない（2件）
- ・過去の経緯から、交流は困難と思われる
- ・中身がなく、具体的でない。子どもの為にならない
- ・交流拠点の位置に偏りがある。池上小周辺にない
- ・市営住宅は町としてイメージが良くない
- ・好きな土地に住める選択肢が減り、近所トラブルが増えそう
- ・1～2人住まいの高齢者が広い市営住宅に住める既得権益が発生しないようにすべき
- ・住民主体でなく、市の経費削減が目的に思える
- ・税金を上げてほしくない

問7 プロジェクト2「学校・教育魅力づくりプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・具体的でなく、現段階では意見の出しようがない（5件）
- ・富秋中学校の位置では、小学校低学年の通学に心配がある（5件）
- ・上級生からの悪影響が心配（3件）
- ・子どもが増えることにより騒音が増えることへの懸念がある
- ・入学式・卒業式がはっきりしなくなる
- ・小中一貫校になると、途中での他校通学がむずかしい
- ・安全面の確保、交通ルールの向上を最優先に
- ・立地条件で学校を選びたい
- ・防犯をしっかりした町づくりをしてほしい
- ・若い世代が移りたいまちになるように
- ・学力向上につながるのであればよい

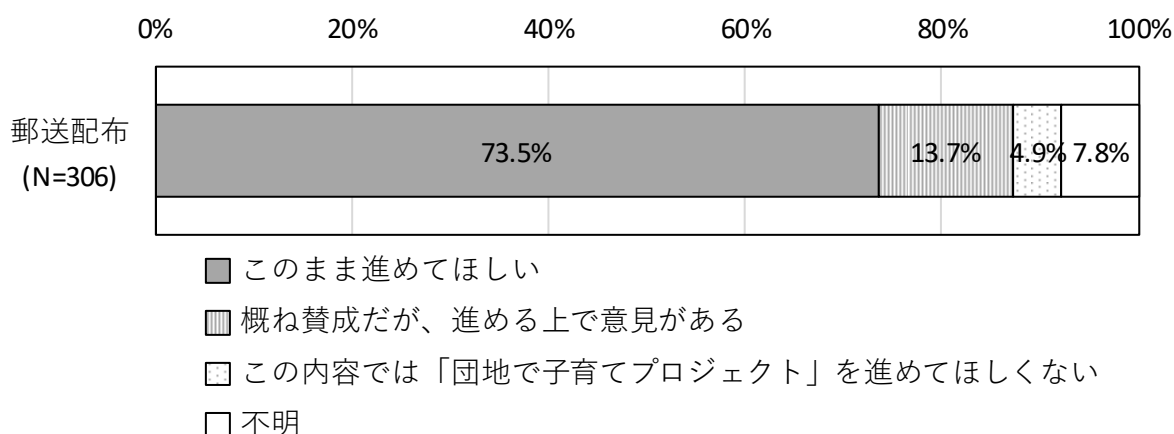
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・施設重視でなく教育の中味に特色をもたせてほしい。例えば英会話を外国人と話す授業
- ・現在の富秋町の悪いイメージから、環境の整った指導と教育の充実で認めてもらえるように
- ・同世代の一体交流できる連帯感を大事に
- ・建替える際、低学年にも使いやすい施設にしてほしい
- ・教員は全国から募集し、雇用期間は有期とする
- ・教員・子どもへの負担も多いので慎重に検討すべき
- ・小中一貫校はいかがなものか
- ・一貫校は賛成だが、跡地の議論をもっとすべき
- ・災害時の避難経路も考慮すべき
- ・一つにまとめたいと思うだけだったらやめた方がよい

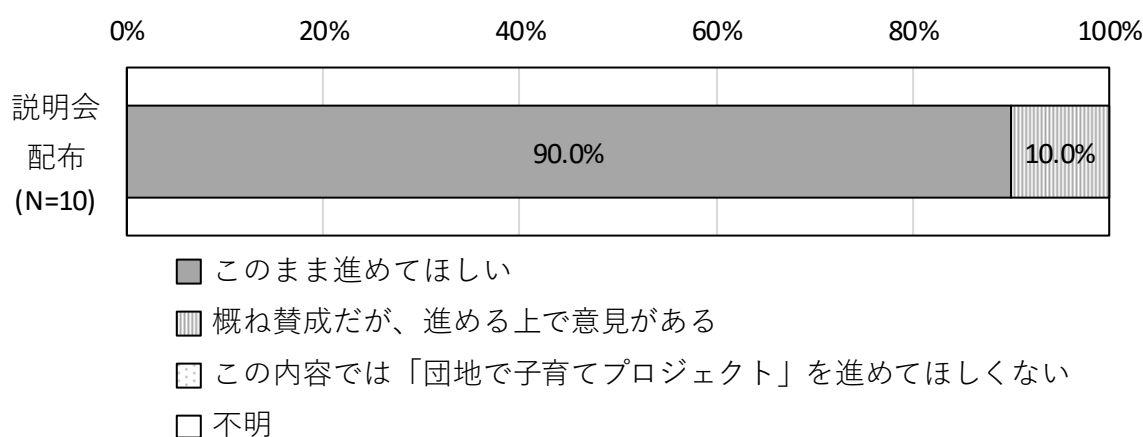
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・上級生や、通学路が変わり近隣の高校生からの悪影響が心配（3件）
- ・いじめ問題など、子ども達への負担が大きい（3件）
- ・漠然とした不安がある（2件）
- ・ハード面を整えても、教育水準の低い学校に通わせたい親はいない。レベルの高い教育環境が必要（2件）
- ・差別のない学校にしたい。楽しい様子を発信してイメージを変えた方がよい
- ・教育魅力づくりの内容が分からない
- ・小中一貫校化は学力低下をまねく恐れがある
- ・熱心に指導する教師も必要だが、この地域を希望する教師はいるのか
- ・小中一貫校化は教員の負担が増えると思う
- ・現在の授業の様子を一度見てから考えてほしい
- ・3校に良い所がたくさんあるので、子ども達には今のまま各学校で学んでほしい（2件）
- ・富秋中学校が残るためなら仕方ないが、現状に不満はない
- ・池上小は残してほしい
- ・施設集約は合理化が目的としか考えられない
- ・他の学校と合併してもよいのでは
- ・昔の校区に戻した方がよい

問8 プロジェクト3「団地で子育てプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・具体的でない（2件）
- ・改修・子育てサポートにはもう少し時間が掛るのでは
- ・子育て世帯を受け入れる為には近隣に保育園の空きがあるのかなど、不安が軽減される様に資料等で事前にわかりやすい施策を
- ・保育園、幼稚園の増設も必要
- ・地域には戸建住宅地も必要
- ・丸笠団地も活用をお願いしたい
- ・若者や子育ての人々を呼びこんで、和泉市を豊かな町にしたい方がよい
- ・一人で夕食を食べる子どもがいなくなれば
- ・多世代交流は若者にこだわることは無い
- ・移住者との交流は、人を集めるだけか

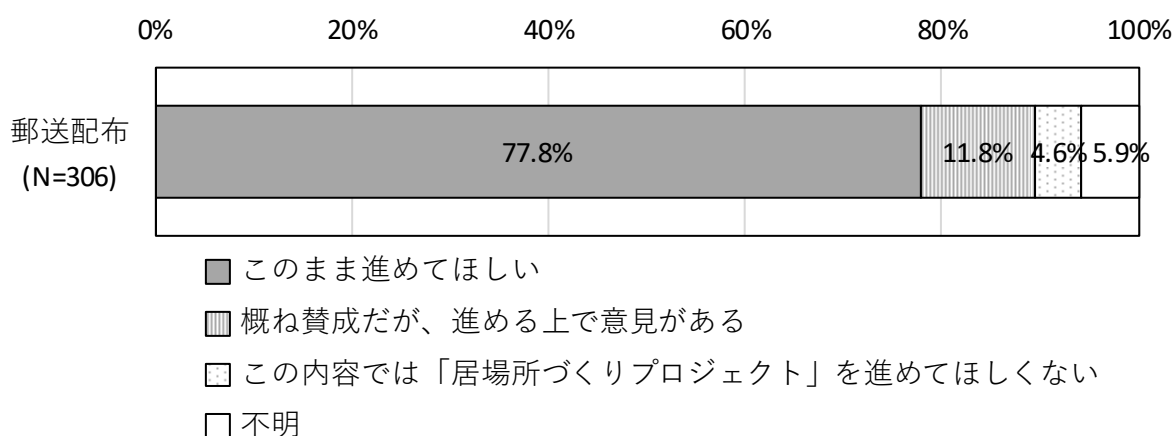
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・若者・子育て世帯のニーズを取り入れるシステムがあればよい（2件）
- ・若者の単身者も市営住宅に空きがあれば入れてあげてほしい（2件）
- ・今のままでは条件が多すぎて、入居しにくいのではないかな
- ・若者・子育て世帯のニーズに合わせるのはむずかしい
- ・市営住宅は外装からかえるべき、恐い汚いイメージしかない、今のままでは人が集まらない（2件）
- ・若者・子育て世帯に住みやすいようリフォームすることが第一
- ・いまの環境を整えてほしい（駐輪所の管理の徹底など）（2件）
- ・市営住宅の耐震性が心配
- ・改修には費用がかかるが効果があるのか（2件）
- ・呼び込む世帯は誰でも良いわけではない、精査してほしい（2件）
- ・存地との融和も課題として残らないようにするべき
- ・市営住宅の入居審査をきちんとしてほしい
- ・環境悪化（中高生のたまり場になるなど）とならないようにしてほしい（3件）
- ・地元の人たちが受け入れてくれなければ成功しないと思う
- ・今住んでいる人を優先してほしい
- ・周辺の人に十分な情報周知を行うべき
- ・色々な助成も必要

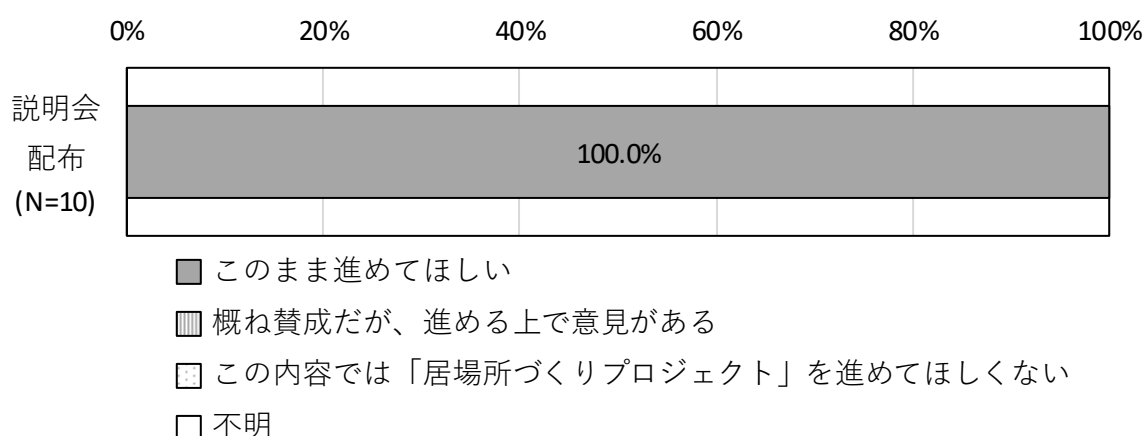
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・納得できない、内容がよくわからない（3件）
- ・建替えには費用がかかるが、他に優先すべき事があるのでは（子育て世代への補助など）
- ・子育ての対象が就学児童のみ。未就学児童が定着してこそその子育てプロジェクト。このままでは、小学校入学前に転出されてしまう
- ・待機児童を発生させない
- ・空き住戸を希望する人がいるのか、若い世代は入らない（2件）
- ・家賃を下げる等の方法より、どうしたら呼び込めるかを先に考えた方がよい
- ・現在なぜ空き住戸、空きスペースがあるのか。今後も発生していくのでは
- ・共働きが多いなか、子どもを呼び込んで誰が面倒をみるのか
- ・子ども好き、子どもギライなど色んな人がいるので、事件、事故などが心配

問9 プロジェクト4「居場所づくりプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・具体的な内容が知りたい
- ・行ってみたいと思える場にしてほしい
- ・全国のうまく行っている所を見習うべき
- ・丸笠団地も活用をお願いしたい
- ・環境を整えてほしい（駐輪所の管理の徹底など）
- ・無駄な費用は抑えるべき
- ・居場所は近くが良い。大きい地域で一ヶ所であれば行きづらくなるので、大きな核より小さなコア（核）が多くある方がよい
- ・商業ゾーン・医療ゾーン・工業ゾーンと居住ゾーンの区切と静けさも必要
- ・1～2歳が遊べる安全な公園がほしい
- ・スポーツ少年団やスポーツ施設を作って、つながりを増やしてみても

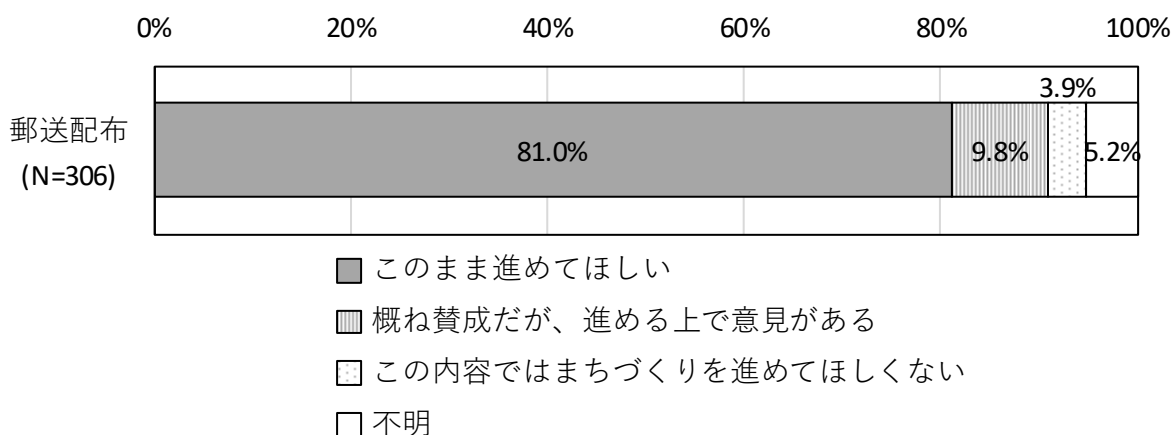
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・子育て重視
- ・子ども達が放課後、安全に過ごせる場作りをしてほしい
- ・幼稚園に入るまでの母子のコミュニケーションの場をもうけるべき
- ・主に、小さな子ども達に視点を置き、そういうスペースができれば自然と、高齢者や、子育て世代の若い母親たちも集まれるのではないか
- ・年子や多胎児を持つ親の苦労は尋常ではない。そこをサポートする企画がない
- ・病院以外に、高齢者の居場所増やしてほしい（昔遊びを子どもに教える場など）（3件）
- ・憩いの場、おしゃべりの場がほしい
- ・足が不自由な人でも行けるように考えてほしい
- ・障がい者を含めての居場所づくり、医療機関の充実
- ・この様な場所に参加出来る人ばかりでなく、訪問型も考えた方が良い
- ・運営はどこが主体と責任を持つのか
- ・現状、子どもや親、高齢者がどこへ行っているか把握できているのか
- ・子ども達が犯罪に巻き込まれないように、支援者を登録制にし、事件を未然に防ぐ
- ・居場所の提供で終わってはいけない。子育て支援、高齢者支援の専門スタッフを置き、円滑に運営しなければ、問題の起きやすい場となってしまうそう
- ・広報支援が必要
- ・ボランティア、シルバー的な活動にもなるのかどうか

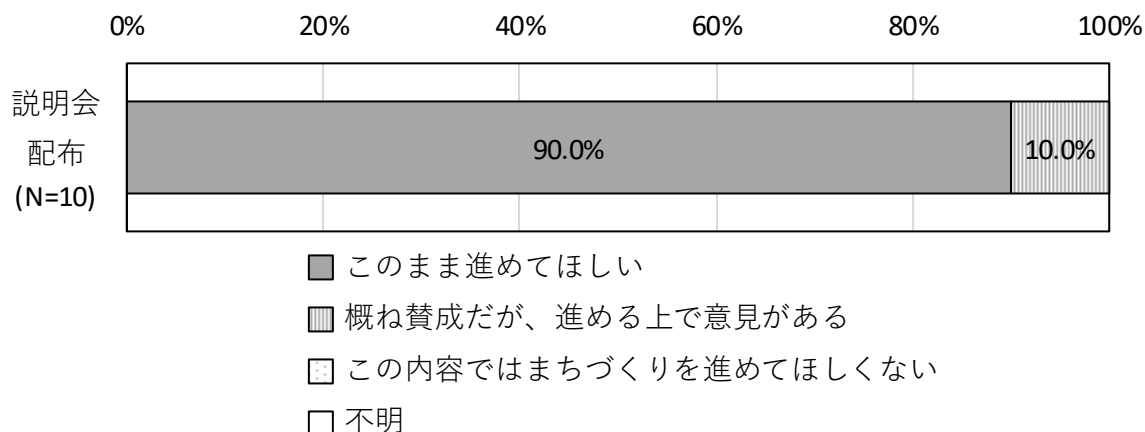
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・誰でも集まれる場所の定義が不透明。利用する人が限られ、結局使われなさそう（2件）
- ・結局、高齢者が厚遇され、ファミリーは利用できなくなりそう。『誰でも』ではなく、利用者及び利用シーンを分ける活用方法、アピールの仕方が必要（2件）
- ・価値観が多様化するなか、高齢者の「居場所」や「生きがい」を定型的に考えている所が問題。簡単に考えすぎている（2件）
- ・若者は、外で仕事がしたいと思う。子育て世帯の支援をもっと本気で考えてあげては
- ・これらのプロジェクトを行う事で、福祉支援金等が削られたり、駐車料金が値上げするので、何を大切に行うのかよく分らなくなる。現在の住民の事も重く考えてほしい
- ・地域で充実させれば、現状の見直しで良い
- ・自分の事で精一杯、他人までみれない
- ・池上町からは少し遠い
- ・監視カメラの設置など、防犯対策を万全にする

問10 プロジェクト5「安心・安全暮らしプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・具体的な内容を知りたい（3件）
- ・高齢者とか障がい者とかの枠を取り払ってほしい。当たり前に、一緒に暮らしていける社会を期待する
- ・障がい者（認知症を含む）に対する認識を改め、接し方などを学習するような機会（勉強会、介護者の話を聞く会、障がい児（子ども限定）との交流会）などがあればよい
- ・十分な教育が必要
- ・何かあれば些細なことでも高齢者や障がい者側から発信したことに身近な人が対応できるシステム作り
- ・町会、隣組、班単位の自治などの強化
- ・障がい者に聞き取りをしてすすめてほしい。障がいの種類によって状況が違うと思う
- ・参加する人がいるのか（2件）
- ・建物が出来ても運営がうまくいくか、利用されるものになるのかが心配（2件）

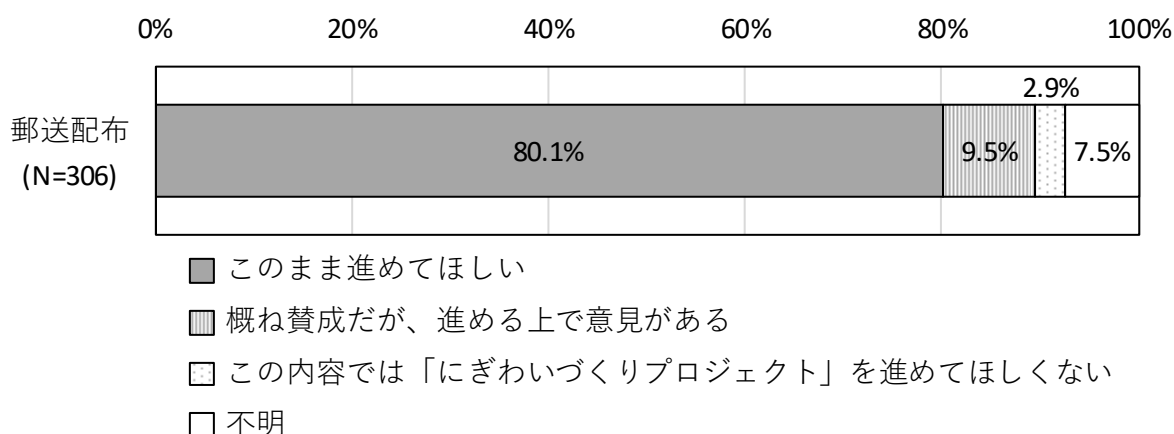
※ 回答の割合は少数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

- ・大勢の方が集まることを考えると、防災上安全な施設が必要である（２件）
- ・カフェや映画など。若者や主婦や子どもに興味のあるもので参加できる事があればいい
- ・道路整備
- ・予算の問題、福祉は大事と思うが民間を活用する手もあると思う（２件）
- ・丸笠団地を北部地区の核として追加を
- ・まずは市職員が資格等を取得して活動してみては
- ・「協議の場」の優先順位が多すぎる

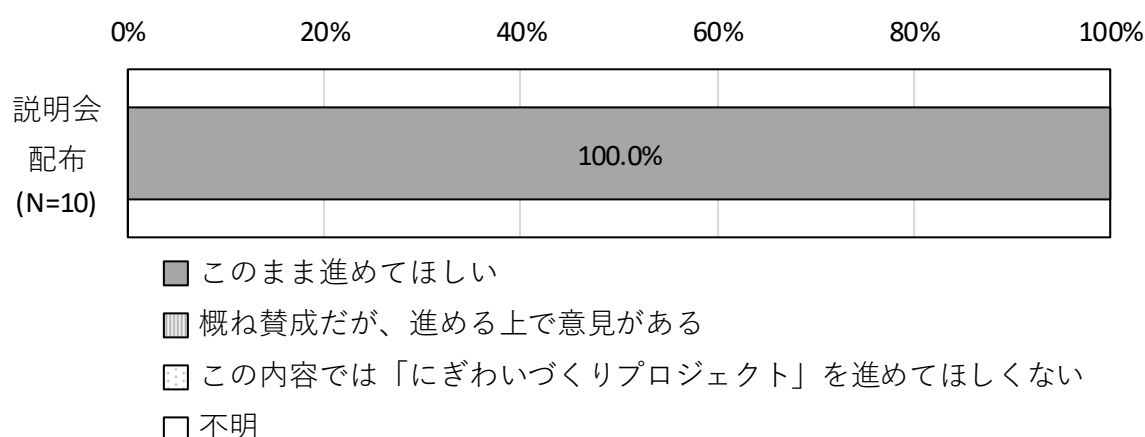
■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・具体性に欠ける、財源はどうするのか（２件）
- ・高齢者や障がい者が安心安全に暮らせるように、とは願っているが、誰が担うのか。地域の一部の人に負担がかからないのか懸念。障がいを知る・理解するという機会が地域で得られることは良いと思う
- ・何かあった時が怖いので、子どもを行かせられない、安心できるのか心配（２件）
- ・子どもや若者を高齢者や障がい者の福祉対策等の道具と考えてほしくない
- ・近所つきあいもしないなか、誰も参加しないのでは
- ・イメージが暗い
- ・分譲地にして、税金も入るのではないか
- ・日常的とはどういうことか

問１１ プロジェクト６「にぎわいづくりプロジェクト」について



(参考) 地域説明会



■進める上での意見（要約） ※カッコ内件数は当該意見のほか類似意見を含めた件数

- ・具体的な内容が知りたい
- ・このプロジェクトは和泉市全体で取組む必要があると思う
- ・なんでもよいわけではない。地域住民、自治会との連携で取組んでほしい
- ・無駄に立派なものでなくて良い。利便性と居心地の良いものにしてほしい
- ・昔の様に商店街的なまちなみにした方が、買う人、売る人、勤める人に良いと思う
- ・イオン、イズミヤなどフットコートが少ない。気兼ねせずに、長くいられる所があるとよい
- ・きっかけをつくる店の誘致
- ・馴染みのお客様のことを考えると、お店の場所が一番気になる
- ・駅周辺をもっと活性化しないとつながらない。駅周辺の環境改善
- ・観光魅力づくりに再考が必要、地場産業や歴史だけで観光魅力は弱いと思う（２件）
- ・既存のものに頼らず、新たに魅力を作り出す「創造的」な取り組みが必要
- ・地域循環型、地産地消の風土を根づかしてほしい

※ 回答の割合は少数点第２位を四捨五入しているため、合計が１００％にならないことがあります。

- ・人造真珠は、昔のネックレスとイヤリングだけでなく、可愛いピアスなど若い人に集まってもらえるものも必要
- ・外国からの観光客を呼び込むのはハードルが高いので、国内の旅行客を呼び込む方が良い。
池上曽根史跡公園の敷地面積があれば、ポケモン GO のイベントコラボなどで簡単に認知度を上げることは可能
- ・ガラス細工・人造真珠などの地域ブランドをつくる為の、具体案・資金計画・費用対効果が不明
- ・対応する商店、職人の勉強会
- ・たくさんの観光客は来てほしくない
- ・商工祭りは池上遺跡公園ですべき
- ・市内にあるゴーストタウン化した駅前商店街をそのまま放置出来ない

■この内容でまちづくりを進めてほしくない理由（要約）

- ・もっと内容を市民と考えるべき
- ・地元事業者も地場産業者も魅力を自らの工夫でもっとアピールすべき
- ・地元商業者等とあるが、商工まつりですら参加業者が減少したのにも関わらず実現性がない
- ・店も何もないのに観光する場所もない
- ・駅前が「ゴーストタウン」は大問題
- ・外国人が、日本の生活になれるのか、不安
- ・外国人の来街は反対。歴史館等も不要

問１２ 富秋中学校区等でのまちづくりに対する想い、まちづくりのアイデア

【地域の居場所づくり、交流・イベントに関する意見】

- ・色々な人（高齢者や障がい者、子どもや若者等）と交流できるようイベントが充実すればよい（町内会、学校の運動場、池上曽根史跡公園等）（６件）
- ・みんなの居場所があるとよい（大人が本を読む、子どもが遊具で遊ぶ等）（４件）
- ・高齢者と子どもの交流がさかんになるとよい（２件）
- ・子どもが遊べる、散歩ができる、健康づくりができるなどの中規模公園の充実や遊歩道の整備（６件）
- ・運動公園やスポーツなどが出来る施設がほしい
- ・人々が集う、にぎわう多目的広場が必要
- ・阪和線で地域分断されており、高齢者や障がい者の移動手段が難しい状況で、交流が困難。各地区の“まちの核”を拠点に各地区別の意見交換会等で交流を図れば
- ・閉鎖的なまちのイメージを感じる

【教育・子育て環境に関する意見】

- ・教育の質をもっとあげるべき、地域イメージが悪い（２件）
- ・小学校の人数が少ない、クラス替えがないのは子どもがかわいそう（２件）
- ・慣れ親しんだ場所での学校生活を希望。小中一貫校でのトラブルが心配
- ・子どもたちが安心して学校に通い、地域全体でよりよい町になることを願う
- ・子連れにやさしい場所が増えるとありがたい
- ・共働き世帯への配慮が必要

【市営住宅に関する意見】

- ・コミュニティの衰退により、清掃や防犯・防災に不安がある
- ・入居基準を変え、若い人や一人暮らしでも入れるようにしてほしい
- ・高齢者や母子家庭の引越の負担も考えてほしい
- ・市営住宅の修繕の自己負担（蛇口・換気扇など）をやめてほしい

【医療・福祉に関する意見】

- ・災害時に高齢者や障がい者を助けてくれる仕組み（２件）
- ・訪問看護ステーションを複数設置し、一人暮らしの高齢者への安心
- ・市営住宅の「老人ホーム」的な活用
- ・地域の事が良く分からない。これからの福祉の事が心配

【人権尊重・歴史を継承したまちづくりに関する意見】

- ・人権の尊重されるまち、幸・王子の歴史が生かされ、継承される事を希望する
- ・池上曽根遺跡の最盛期を復元した上で、世界遺産に認定された古市・百舌鳥古墳群とタイアップして観光客の誘致を図る
- ・このまちでつくった物売る「まちの駅」をつくる

【交通安全性に関する意見】

- ・狭い道を、もっと通りやすいゆとりのある道路にしてほしい（6件）
- ・安全な道路・通学路を確保（ブロック塀の解消、狭い道での見守り、線路を超える心配）（3件）

【防犯・防災に関する意見】

- ・防犯カメラ設置や住民参加の見守り等、防犯面で安心安全なまちづくりをしてほしい（5件）
- ・街灯が少なく夜暗いので、歩くのが怖い。街灯を増やしてほしい（4件）
- ・交番を設置してほしい
- ・防災に強い安心して住めるまちにしてほしい（2件）

【施設立地や利便性に関する意見】

- ・郵便局や市役所、病院、スーパーが遠く、生活するのに不便（3件）
- ・乗り合いバスの回数を増やしてほしい
- ・JR 信太山駅を公共交通の結接点に考える

【施設利用・跡地活用に関する意見】

- ・小中学校の運動場のイベント等の活用（2件）
- ・市営住宅の跡地に商業施設を置いてほしい（2件）
- ・市営住宅を集約した跡地に複合施設や出張所、公共施設を一か所にまとめる
- ・旧幸幼稚園跡地の活用（富秋中学校校区へ遠いお年寄りも利用できる場所を希望）

【人口増加や地域活性化に関する意見】

- ・人口をもっと増やすべき
- ・若い子育て世帯がたくさん居住するまちづくりを
- ・富秋・池上周辺に子育て世帯が住める住宅地をもっと増やす
- ・まちの活性化、明るく楽しい、活気のあるまちづくり（3件）
- ・新旧住民の相互理解、協力しあえるまちづくりを
- ・新しい人だけでなく、住んでいる人も大事にしてほしい

【まちづくり構想およびその推進に関する意見】

- ・情報発信の方法、参加周知の方法を検討すべき（7件）
- ・子どもや若者から意見をもっと引き出すべき（2件）
- ・自分の意見は取り入れられないのでは（2件）
- ・アンケートはもっと早い段階で行うべき
- ・このまま進めてほしい（4件）
- ・新しいものはどんどん取り入れてほしい
- ・具体性がない。本当に実現するのか（3件）
- ・まちづくりの費用がかかることや費用配分への懸念（投資するプロジェクトはもっと他にある、コストを下げる工夫を、無駄な経費を抑えること）（4件）

【その他】

- ・住民のマナー・意識の低さが問題（動物虐待、ゴミ、路上駐車等）（7件）
- ・地域のマイナスイメージが変えられないか（3件）
- ・働きたいと思える場所が少ない
- ・飛び地の活性化はできないか